



2012

子どもゆめ基金ガイド



National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構



目次

「子どもゆめ基金」について	1
「子どもゆめ基金」の概要	2
平成24年度 応募・採択状況	4
平成20～23年度 応募・採択状況	5
平成23年度助成活動事例（子どもの体験活動）	
【自然体験】	
・しまキャンプ2011・夏休み	6
・海ガメがくる海へGO！	8
・ファミリーキャンプinみちのく公園2011	10
・わんぱくキッズ自然体験活動	12
・広がる！ 森里海の自然体験指導者ネットワーク	14
【科学体験】	
・植物のタンパク質実験	16
・チャレンジ！ おもしろキッズサイエンス	18
【交流体験】	
・「体験の風をおこそう運動」 おじいちゃん・おばあちゃんと一緒にウォーキング	20
・やればできる！ 自分に挑戦！ 平成23年度伯耆町通学合宿	22
・キッズフェスティバルinあらえびす2011	24
平成23年度助成活動事例（子どもの読書活動）	
【読書】	
・本の世界を楽しく体験する読書会2011	26
・「おやし劇団」読み聞かせ指導者養成2011	28
・豊かな読書活動を支える読書ボランティア・スキルアップ講座	30
・青空おはなしタンケンジャー	32
子どもゆめ基金ガイドの活用方法とワンポイントアドバイス	34
平成23年度助成活動事例（教材開発・普及活動）	
【教材】	
・東京湾の生きもの	36
普及啓発事業の事例	38
「子どもゆめ基金への寄附団体」	40

「子どもゆめ基金」について

「子どもゆめ基金」は、衆議院・参議院の超党派の国会議員により構成される「子どもの未来を考える議員連盟」が子どもの未来のために有意義な基金の創設を発意し、平成13年4月に創設されたものです。

今日、都市化や少子化、情報化などが進展する中で、社会全体で様々な課題が生じるとともに、子どもたちをめぐる様々な問題は複雑化・多様化してきています。平成24年度に全面実施となって、新学習指導要領においても、その改善内容には、体験活動等の充実や、言語活動の充実などが盛り込まれています。

また、体験活動に関する最近の調査（(独)国立青少年教育振興機構「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」）では、「子どもの頃の体験が

豊富な大人ほど、やる気や生きがいを持っている人が多い」（成人調査）、「友だちの多い子どもほど学校好き、憧れる大人のいる子どもほど働くことに意欲的」（青少年調査）など、子どもの頃の体験は、その後の人生に影響することが示唆される結果が出ています。

この基金は、未来を担う夢を持った子どもの健全育成を推進するため、自然に触れ親しむ活動、科学実験などの科学体験活動、異年齢間の交流を促進する活動、絵本の読み聞かせ会などの読書活動といった地域の草の根団体が実施する様々な体験活動や特色ある新たな取り組み、体験活動等の裾野を広げるような活動を中心に、様々な体験活動や読書活動等への支援を行っています。



「子どもゆめ基金」の概要

助成金の交付

● 助成対象活動 ●

子どもの体験活動の振興を図る活動への助成

活動例

- 1 子どもを対象とする体験活動
 - ・ 自然観察、キャンプなどの自然体験活動
 - ・ 科学実験教室などの科学体験活動
 - ・ 清掃活動、高齢者介護体験などの社会奉仕体験活動 など
- 2 子どもの体験活動を支援する活動
 - ・ 子どもの体験活動の指導者養成 など



子どもの読書活動の振興を図る活動への助成

活動例

- 1 子どもを対象とする読書活動
 - ・ 読書会活動、読み聞かせ会 など
- 2 子どもの読書活動を支援する活動
 - ・ 子どもの読書活動の振興を図るフォーラムの開催 など



子ども向けソフト教材を開発・普及する活動への助成

活動例

- ・ 子どもの体験活動や読書活動を支援・補完する、インターネット等で利用可能なデジタル教材を開発し、普及する活動



● 助成対象団体 ●

公益財団法人、公益社団法人、一般財団法人、一般社団法人、
特定非営利活動法人など
青少年教育に関する事業を行う民間の団体

助成金の額

個別の助成活動に対する助成金の額は、予算の範囲内で、審査委員会の議を経て決定されます。

審査方法

子どもゆめ基金における助成対象活動の決定については、子どもゆめ基金による助成金の交付を適正に行うため、自然体験活動や社会奉仕体験活動等の体験活動、読書活動、教材開発などの分野において実務経験を持ち、かつ青少年教育に高い識見を有する委員で構成する「子どもゆめ基金審査委員会」を設置し、そのもとに各分野別の実情及び特性を踏まえて審査を行います。

応募のあった活動については、機構理事長から審査委員会へ助成活動の採択について諮問を行

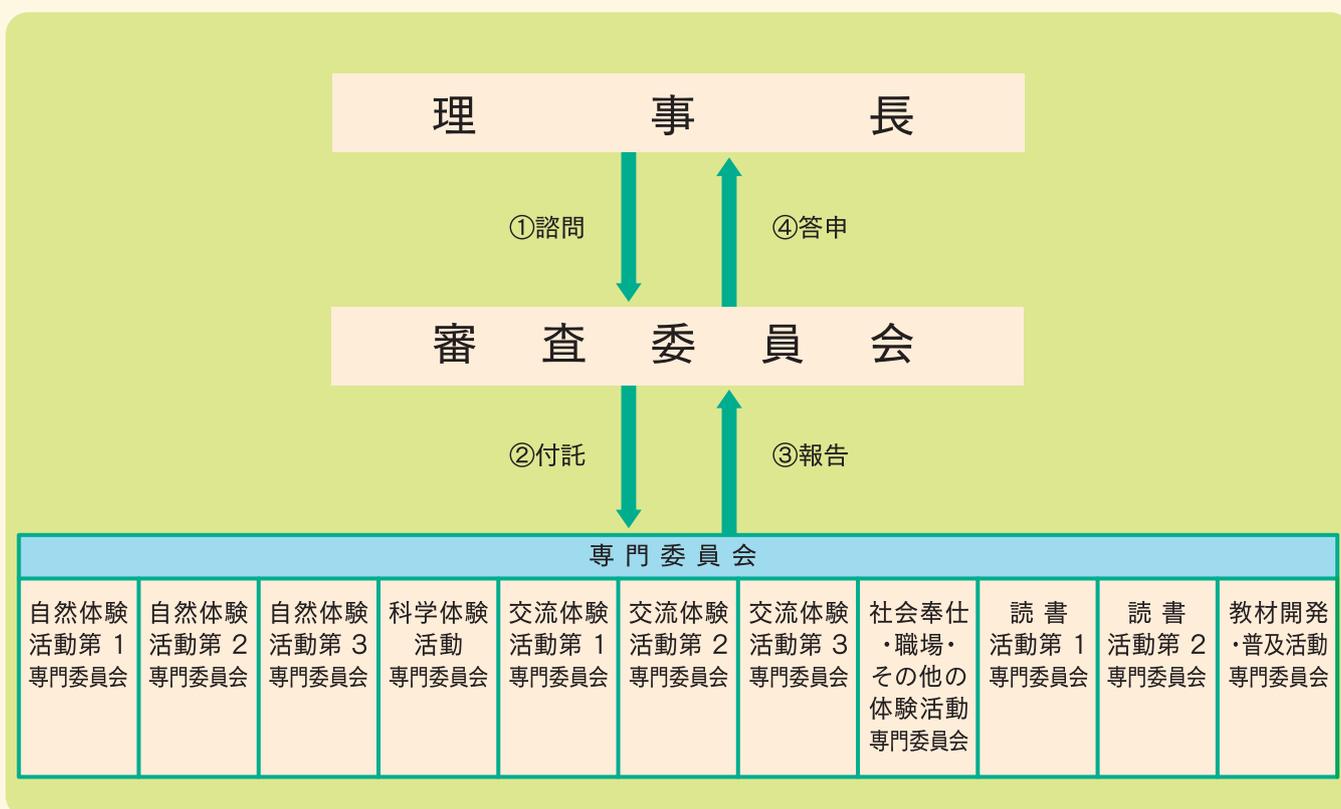
い、これを受けて審査委員会から専門委員会へ調査審議の付託を行います。

専門委員会の審査は、各団体から提出のあった助成金計画調書について、各専門委員が専門的見地から評価し、合議により助成対象活動の評定(選定)を行います。

審査委員会では、各専門委員会での審査結果をもとに、採択すべき助成活動及び助成金の額について審議を行い、採択する活動及び助成金額を決定します。

普及啓発

子どもの体験活動や読書活動の振興を図るための普及啓発を行います。(子どもゆめ基金ガイドの作成、子どもゆめ基金PRビデオの作成、普及啓発事業の実施等)



平成24年度 応募・採択状況

(4月2日現在)

平成24年度 活動区分別応募・採択状況

(単位：千円)

活動分野	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	3,494	2,551	1,115,574
子どもの読書活動	596	438	160,613
教材開発・普及活動	64	19	98,700
合計	4,154	3,008	1,374,887

都道府県別応募・採択状況

(単位：千円)

都道府県	活動区分	応募件数	採択件数	交付内定額
北海道	子どもの体験活動	228	164	72,526
	子どもの読書活動	27	21	4,322
	教材開発・普及活動	2	1	8,233
青森県	子どもの体験活動	28	24	5,992
	子どもの読書活動	2	0	0
	教材開発・普及活動	0	0	0
岩手県	子どもの体験活動	41	37	13,729
	子どもの読書活動	4	2	1,081
	教材開発・普及活動	0	0	0
宮城県	子どもの体験活動	41	31	12,286
	子どもの読書活動	8	3	462
	教材開発・普及活動	0	0	0
秋田県	子どもの体験活動	11	5	3,624
	子どもの読書活動	6	3	1,156
	教材開発・普及活動	0	0	0
山形県	子どもの体験活動	21	20	5,842
	子どもの読書活動	3	3	592
	教材開発・普及活動	0	0	0
福島県	子どもの体験活動	46	30	9,443
	子どもの読書活動	11	9	3,112
	教材開発・普及活動	0	0	0
茨城県	子どもの体験活動	36	21	13,254
	子どもの読書活動	11	11	1,105
	教材開発・普及活動	0	0	0
栃木県	子どもの体験活動	57	45	16,969
	子どもの読書活動	20	16	3,145
	教材開発・普及活動	0	0	0
群馬県	子どもの体験活動	55	38	17,285
	子どもの読書活動	2	2	526
	教材開発・普及活動	0	0	0
埼玉県	子どもの体験活動	86	67	32,469
	子どもの読書活動	20	7	881
	教材開発・普及活動	1	1	6,931
千葉県	子どもの体験活動	139	96	27,281
	子どもの読書活動	8	7	1,554
	教材開発・普及活動	2	1	1,512
東京都	子どもの体験活動	593	412	232,806
	子どもの読書活動	75	54	57,114
	教材開発・普及活動	22	7	36,165

都道府県	活動区分	応募件数	採択件数	交付内定額
神奈川県	子どもの体験活動	113	65	31,086
	子どもの読書活動	15	9	2,327
	教材開発・普及活動	3	1	3,666
新潟県	子どもの体験活動	59	50	25,666
	子どもの読書活動	10	10	3,322
	教材開発・普及活動	0	0	0
富山県	子どもの体験活動	15	12	7,095
	子どもの読書活動	2	1	255
	教材開発・普及活動	1	0	0
石川県	子どもの体験活動	32	24	10,705
	子どもの読書活動	7	6	420
	教材開発・普及活動	0	0	0
福井県	子どもの体験活動	48	43	16,102
	子どもの読書活動	4	3	684
	教材開発・普及活動	1	0	0
山梨県	子どもの体験活動	18	16	9,430
	子どもの読書活動	6	6	1,025
	教材開発・普及活動	0	0	0
長野県	子どもの体験活動	84	60	25,441
	子どもの読書活動	16	13	3,187
	教材開発・普及活動	4	1	6,270
岐阜県	子どもの体験活動	59	44	15,690
	子どもの読書活動	9	6	2,019
	教材開発・普及活動	2	0	0
静岡県	子どもの体験活動	71	57	32,156
	子どもの読書活動	13	5	2,010
	教材開発・普及活動	0	0	0
愛知県	子どもの体験活動	93	68	26,136
	子どもの読書活動	17	12	3,774
	教材開発・普及活動	4	1	4,454
三重県	子どもの体験活動	32	21	8,123
	子どもの読書活動	3	2	476
	教材開発・普及活動	2	1	3,798
滋賀県	子どもの体験活動	56	45	16,383
	子どもの読書活動	30	23	5,208
	教材開発・普及活動	0	0	0
京都府	子どもの体験活動	84	56	22,567
	子どもの読書活動	7	6	1,106
	教材開発・普及活動	5	0	0

都道府県	活動区分	応募件数	採択件数	交付内定額
大阪府	子どもの体験活動	335	244	79,074
	子どもの読書活動	59	49	12,539
	教材開発・普及活動	6	3	15,254
兵庫県	子どもの体験活動	147	113	57,217
	子どもの読書活動	18	12	2,962
	教材開発・普及活動	0	0	0
奈良県	子どもの体験活動	47	37	12,227
	子どもの読書活動	18	13	4,711
	教材開発・普及活動	0	0	0
和歌山県	子どもの体験活動	46	30	14,390
	子どもの読書活動	6	6	2,484
	教材開発・普及活動	0	0	0
鳥取県	子どもの体験活動	12	5	2,063
	子どもの読書活動	4	3	2,774
	教材開発・普及活動	1	1	5,515
島根県	子どもの体験活動	10	7	4,988
	子どもの読書活動	10	9	3,826
	教材開発・普及活動	0	0	0
岡山県	子どもの体験活動	48	43	15,299
	子どもの読書活動	8	3	447
	教材開発・普及活動	0	0	0
広島県	子どもの体験活動	31	21	13,205
	子どもの読書活動	4	3	1,210
	教材開発・普及活動	0	0	0
山口県	子どもの体験活動	20	16	6,410
	子どもの読書活動	7	4	1,814
	教材開発・普及活動	0	0	0
徳島県	子どもの体験活動	63	40	16,568
	子どもの読書活動	9	7	1,413
	教材開発・普及活動	0	0	0
香川県	子どもの体験活動	23	17	7,961
	子どもの読書活動	5	4	869
	教材開発・普及活動	0	0	0

都道府県	活動区分	応募件数	採択件数	交付内定額
愛媛県	子どもの体験活動	36	31	12,426
	子どもの読書活動	1	0	0
	教材開発・普及活動	0	0	0
高知県	子どもの体験活動	31	23	6,497
	子どもの読書活動	2	2	268
	教材開発・普及活動	1	0	0
福岡県	子どもの体験活動	161	126	41,378
	子どもの読書活動	39	32	7,856
	教材開発・普及活動	2	1	6,902
佐賀県	子どもの体験活動	8	6	3,419
	子どもの読書活動	1	1	219
	教材開発・普及活動	0	0	0
長崎県	子どもの体験活動	48	39	8,489
	子どもの読書活動	2	1	300
	教材開発・普及活動	0	0	0
熊本県	子どもの体験活動	65	52	32,416
	子どもの読書活動	31	23	6,593
	教材開発・普及活動	0	0	0
大分県	子どもの体験活動	24	19	13,402
	子どもの読書活動	5	4	1,807
	教材開発・普及活動	1	0	0
宮崎県	子どもの体験活動	35	27	10,727
	子どもの読書活動	7	6	2,420
	教材開発・普及活動	0	0	0
鹿児島県	子どもの体験活動	119	82	35,395
	子どもの読書活動	19	13	3,599
	教材開発・普及活動	2	0	0
沖縄県	子どもの体験活動	39	22	11,937
	子どもの読書活動	5	3	1,639
	教材開発・普及活動	2	0	0
合計	子どもの体験活動	3,494	2,551	1,115,574
	子どもの読書活動	596	438	160,613
	教材開発・普及活動	64	19	98,700

平成20～23年度 応募・採択状況

平成20年度

(単位：千円)

活動分野	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	2,231	1,705	1,159,493
子どもの読書活動	516	450	219,390
教材開発・普及活動	84	28	278,581
合計	2,831	2,183	1,657,464

平成22年度

(単位：千円)

活動分野	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	1,952	1,667	1,135,103
子どもの読書活動	418	370	193,525
教材開発・普及活動	72	31	324,855
合計	2,442	2,068	1,653,483

平成21年度

(単位：千円)

活動分野	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	2,209	1,725	1,156,007
子どもの読書活動	542	464	226,490
教材開発・普及活動	82	29	289,590
合計	2,833	2,218	1,672,087

平成23年度

(単位：千円)

活動分野	応募件数	採択件数	交付内定額
子どもの体験活動	3,615	2,932	1,254,384
子どもの読書活動	644	539	212,584
教材開発・普及活動	113	30	210,556
合計	4,372	3,501	1,677,524

しまキャンプ2011・夏休み

募集対象／小学3年生～中学3年生 活動日／平成23年8月12日（金）～19日（金）（7泊8日）

実施団体名／しまキャンプ実行委員会

構成員数／5名 子どもゆめ基金助成回数／6回

連絡先／〒857-4601 長崎県南松浦郡新上五島町小串郷37

TEL・FAX：0959-55-2707 E-MAIL：kurashi_en@hotmail.com URL：salt99.com

活動の概要

国立公園に位置する五島列島をフィールドに、キャンプ施設が実施している海水からの塩作り・自給自足のくらしをベースとして、自然体験、環境学習、農業・漁業体験活動などに取り組んでいます。ほとんどの食事を野外で自炊し、毎晩テントで寝るなど、有機的な直接体験を繰り返し行ない、仲間たちと協力し合わなければ満足に食事もできない暮らしの中で、「子ども達自らが気付いていきっかけ」を作っています。

活動の日程・内容

月/日	時間	内容
8/12 (金)	午前	集合、開会式、フェリーで移動（佐世保～上五島）、船中オリエンテーション
	午後	バスで移動、テント設営、カマド作り
	夜	ペルセウス流星群の観測、夕食、安全講習、歌を歌って就寝
8/13 (土)	午前	朝の散策、朝食、動物の世話、竹で食器作り
	午後	ペーロン(手漕ぎ船) 競争大会の練習、昼食、海水浴、火おこしから自炊
	夜	夕食、風呂、日記の記入、歌を歌って就寝
8/14 (日)	午前	朝の散策、朝食、動物の世話
	午後	ペーロン競争大会に出場、昼食、自由時間、火おこしから自炊
	夜	ナイトハイク、夕食、風呂、日記の記入、歌を歌って就寝
8/15 (月)	午前	朝の散策、朝食、動物の世話
	午後	自由時間、昼食、戦争の絵本の朗読、話し合い、玄米ご飯など粗食の昼食、家族に手紙を書く
	夜	夕食（一品持ち寄りパーティー）、風呂、日記の記入、歌を歌って就寝
8/16 (火)	午前	朝の散策、朝食、動物の世話
	午後	選択プログラムのグループ分け、選択プログラム、昼食、選択プログラムの続き
	夜	火おこしから自炊、風呂、日記の記入、歌を歌って就寝
8/17 (水)	午前	朝の散策、選択プログラム
	午後	昼食、選択プログラムの続き
	夜	火おこしから自炊、風呂、日記の記入、歌を歌って就寝
8/18 (木)	午前	朝の散策、朝食、動物の世話
	午後	昼食、選択プログラムの発表会、片付け
	夜	夕食パーティー、キャンプファイヤー、就寝
8/19 (金)	午前	朝の散策、朝食、動物の世話、テント撤収(片付け)、解散式



地元ペーロン大会に出場

活動の目的やねらいを達成するための具体的なプログラムと主なポイント

活動のポイント①：火おこしから自炊

はじめある行動、グループを一つにまとめるポイントとして「自分達のことは自分達です」「やるべきことをしてから、思いっきり遊ぶ」をコンセプトに、「一人ではできないこと」「協力し合わなければできない状況」を作り出しています。

例えば、火おこしから野菜の収穫、調理、片付けまでを各グループで毎食行います。

その他にも仕事として、犬、猫、ヤギ、ニワトリなどの動物の世話や、施設内の風呂・トイレの掃除などを、期間中を通して担当したグループが責任を持って行うことにしています。

活動のポイント②：ペーロン（11人乗りの手漕ぎ船）競争大会出場

ペーロン（11人乗りの手漕ぎ船）競争大会に出場し、優勝を目指すことで団結を図っています。また、みんなを一つにする最高のアイテムは音楽と火だと考え、毎晩同じテーマソングを歌うこと、塩作りや自炊、風呂、焚火などの火が常にあるよう心がけています。

活動のねらい

- 1、豊かな自然体験の提供です。
- 2、親元を離れ、異年齢の仲間たちと協力し合って過ごすことで、自主性、協調性、忍耐力、感謝の心などを豊かに養う機会とすることです。
- 3、島の魅力・素晴らしさを広く内外に伝え、高齢化し閉塞感のある島に活力と元気を与えることです。



活動の成果

島の大自然の中、自給自足の暮らしを実践している施設で長期間過ごすだけで、子ども達にとって貴重な体験、豊かな自然体験を提供できています。

これまで12年、31回の宿泊キャンプ実施で、一都一府十二県から、総勢500名以上の子どもが参加しています。またリピーター率も高く、参加者全体の6割前後がリピーターとしてキャンプに帰って来ており、ここ数年では、参加していた子が大学生になって、スタッフとしてキャンプに帰って来てくれる事例も増えています。

子どもの数が年々減少している島にとって、スタッフ合わせて30名程が地元のペーロン大会に出場するなど、このキャンプから「元気」を発信できていると思います。



この活動を実施したことによる団体の成長

長年の経験によるスタッフのスキルアップ。地元での知名度と理解を得たことで協力者が増えたこと。参加した子どもがスタッフとして帰って来てくれること。また、それらにより、自分達の活動に自信を持つこと。以上が団体の成長です。



自炊（火おこし）の様子

活動の課題

スタッフの数の確保です。長崎県内の大学と連携をしていますが、試験期間と重なるなど厳しい状況で、今後は地元の高校生にもスタッフとして関わってもらうことを検討しています。

今後の展望

事業面では修学旅行など団体の受け入れ、スキルの魅力ある施設づくり（フィールド整備）です。

ここに来るだけで強いメッセージを感じる場所として、段々畑の復活などを考えています。



夜のミーティングでの「分かち合い」

団体の概要

子ども対象の野外宿泊型キャンプを年に3～4回実施しています。また、地球46億年の歴史を460mの散歩道上に立て札やオブジェで表現する「地球46億年のトレイル」を観光客等に開放することで、環境教育や啓発活動を行っています。新上五島町の豊かな自然や風土を全国にアピールし、島の振興と活性化を図りながら、地域と時代を担うリーダーの養成を目指して2001年に発足しました。

海ガメが来る海へGO！

募集対象／小学4年生～中学3年生 活動日／平成23年8月17日（水）～21日（日）（4泊5日）

実施団体名／特定非営利活動法人しぜん あそ・まな・くらぶ

構成員数／10名 子どもゆめ基金助成回数／5回

連絡先／〒862-0969 熊本県熊本市南区良町3丁目5-47

TEL：096-378-2942 FAX：096-378-2943 E-mail：info@asomana.net

活動の概要

熊本を基盤としながら、九州の様々な環境について体験し、自然に関心をもち環境を大切にすることを目的に活動しています。各活動はテーマを設けて企画しており、今回は「アカウミガメ」としました。アカウミガメの生態を学び、アカウミガメの孵化を実際に見に行くことで、人とウミガメとの関わりや自然環境の大切さを感じることができました。



ウミガメから海のことを考える

活動の日程・内容

月/日	時間	内容
8/17 (水)	午前	熊本駅集合・新八代駅集合・受付
	午後	人吉クラフトパークへ移動、昼食、開校式、オリエンテーション、テント設営、川の安全教育（川での危険予知トレーニングを行う）、川での活動（川遊び・川の流れに乗る）
	夜	夕飯作り（各班ごとで分担して行う）、荷物整理、夕食、片付け、振り返り、就寝準備・就寝
8/18 (木)	午前	朝食作り（各班ごとで分担して行う）、朝食、片付け（テントや皿・鍋洗い・備品の片付け）
	午後	バス移動（宮崎県青島青少年の家へ）、昼食、レクリエーション（水遊びや運動場で体を動かす）、入所式、オリエンテーション
	夜	荷物整理、入浴準備、夕食、就寝準備、入浴、振り返り、就寝
8/19 (金)	午前	朝食、ウミガメが生きるフィールドをカヌー体験（水上アスレチック）
	午後	昼食、ウミガメについて（アカウミガメの話・アカウミガメの孵化や子ガメの話・ウミガメの種類）
	夜	入浴、夕食、振り返り、荷物整理、就寝準備・就寝
8/20 (土)	午前	ウミガメの観察（朝5時に起きて、子ガメの観察）、朝食
	午後	海での活動（海水浴、青島海岸に自転車で移動）、昼食（お弁当）、海での活動（海水浴・磯観察・青島神社へ・青島海岸から自転車移動）
	夜	荷物整理、入浴準備、夕食、入浴、振り返り、就寝準備・就寝
8/21 (日)	午前	朝食、荷物整理、ウミガメについてのまとめ（壁新聞作り）
	午後	昼食、退所式、バスで八代駅へ移動、八代駅・熊本駅 解散

活動の目的やねらいを達成するための具体的なプログラムと主なポイント

活動のポイント：①ウミガメについて・②ウミガメの観察・③ウミガメについてのまとめ

事前に指導者からカヌーで海に出たり、ウミガメの生態について教えていただきました。ウミガメについて理解を深めていたため、実際の産卵の場所での観察のポイントやその行動の意味など読み解くことができました。知識的な理解と体験的な理解が繋がったことで、よりよい体験をすることができました。

また体験したことを、個人で、またグループでリーダーとともに振り返りを行いました。気づきを共有し、話し合いを深めることで体験したことを自分自身に引き付けて考えることができました。最後にウミガメに関する新聞づくりを行うことで体験の過程をまとめ、他の人とも共有することができました。

活動のねらい

アカウミガメの生態について伝えることがねらいです。世界の分布状況や回遊ルート、泳ぎ方や産卵方法などを実際の産卵現場の観察と合わせて理解を深めるようにします。また産卵をきっかけに生物のもつ生命の力強さについて感じさせたいと考えました。

ウミガメは絶滅危惧種であり、その原因の一部には私たち人間の影響が少なからずあることから、ウミガメへの人間の影響について考え、産卵場所を保全していくために私たちにできることは何かについて考えるきっかけにします。



砂浜のウミガメの痕跡を観察中

活動の成果

ウミガメの産卵自体は、残念ながらタイミングが合わずに終わっていました。しかし偶然にも子ガメが孵化する時期で、孵化の様子や子ガメが海に帰って行く姿を観察でき、大変貴重なウミガメの観察体験ができました。この体験は子どもたちも非常に心に残ったようで自然の大切さをふりかえりのコメントに書いていました。

この活動を実施したことによる団体の成長

これまでは、バスなどで集合場所から現地へ直行していましたが、今回は公共機関とバスを乗り継いで時間をかけてウミガメに会いに行く行程をつくることができました。ウミガメの講師の方には、フィールドの紹介や解説などで大変ご尽力いただき、団体としてもフィールドの保全方法やウミガメをテーマとした体験手法について大きな学びがあり、活動の組み立て方に幅が広がったことが大きな成長と考えています。



ウミガメ新聞を作って他の人に伝えます

活動の課題

このような形で講師との関係ができたため、この関係を継続させていく必要があると思っています。

参加者には、体験で終わることなく自然や環境について学びを続けてほしいという願いがあります。今回は、ウミガメをテーマに関心をもった子どもたちでありましたが、子どもたちにはさらに他の自然や環境についても関心を持ち続け、学びを続けることが課題だと考えています。参加した子どもたちが継続して関心や学ぶ機会をもつために情報の発信や体験機会の充実などが必要であり、その点が課題でもあると考えています。

今後の展望

環境教育として「生物多様性」「資源の有限性」「相互依存性」「物質の循環性」など理解してほしい概念を体験活動の中でどう具体的に取り組んでいくかについてさらに研鑽をつんでいくことです。

また常に野外活動としての側面があるため、安全に安心して活動に取り組める環境や仕組みづくりをしっかりと作っていきたいです。

団体の概要

ボランティアリーダーが集まり、法人を設立。自然を大切に思う心や環境保全に積極的に取り組む人材を増やすことが目的です。主な事業として『環境教育事業』『人材育成事業』『団体支援事業』を活動の柱とし、九州各地をフィールドとしながら活動を展開中です。

ファミリーキャンプinみちのく公園2011

募集対象／親子15家族50名程度 活動日／平成23年8月6日（土）～7日（日）（1泊2日）
 実施団体名／宮城県キャンプ協会
 構成員数／6名 子どもゆめ基金助成回数／5回
 連絡先／〒985-0873 宮城県多賀城市中央二丁目25-3
 多賀城市市民活動サポートセンター内（レターケースNo.28） TEL・FAX：0225-79-1331

活動の概要

自然に恵まれた「国営みちのく杜の湖畔公園エコキャンプみちのく」においてキャンプに興味がある親子を対象に自然体験を通して親子のコミュニケーションづくりを図るためファミリーキャンプを行いました。



お父さんの竹皿づくり

活動の日程・内容

月/日	時間	内容
8/6 (土)	10:00	受付開始 テント設営・名札作り
	11:00	開村式
	12:00	昼食
	13:00	チャレンジプログラム場所へ移動 ・沢登り体験（併設：散歩と小枝クラフト）
	15:30	キャンプ場へ移動
	16:00	自由参加：かんたんおやつづくり紹介 （ポップコーンづくり）
	17:00	夕食タイム（家族ごと）
	19:00	キャンプファイヤー
	20:00	夜カフェオープン 自由参加：空き缶ランタンづくり
	21:00	就寝
8/7 (日)	7:00	朝カフェオープン
	8:00	朝食タイム（家族ごと） （朝食後テント撤収作業）
	10:00	アウトドアクッキング&竹皿づくり ・うどんづくり（子ども達とお母さん） ・竹皿づくり（主にお父さん）
	12:00	みんなでうどんを試食 後かたづけ
	13:00	閉村式
	13:30	解散

活動の目的やねらいを達成するための具体的なプログラムと主なポイント

活動のポイント①：沢登り

釜房湖にそそぐ川の支流にて流れ体験によるウォータースライダーや段差を登るシャワーライミング等の自然体験活動を行うことにより、地域の自然の理解を図ります。

活動のポイント②：アウトドアクッキング&竹皿づくり

うどんづくりと竹皿づくりを親子で行い、コミュニケーションづくりや自然の中で食事することの楽しさを体感してもらいます。



沢登り、流れ体験

活動のねらい

- ①親子を対象として子ども達に自然体験の大切さを感じてもらうことです。特に初心者には自然の中で活動して、寝て、食べることの楽しさを感じてもらいたいです。
- ②食事は家族毎にコミュニケーションを図りながら作って食べてもらうこととし、子ども達にも食事の準備を手伝ってもらい、自然の中で食事をするこの楽しさを体感してもらいたいです。
- ③アウトドアクッキングでは、参加者同士の交流とみんなで協力するという協調性を養うことを期待しています。



活動の成果

- ①普段体験出来ない沢登り体験では、スタッフの万全な体制の下、段差による「流され体験」などが体験でき、子ども達は貴重な自然体験ができたと評価しています。保護者からも家族だけのキャンプでは、体験でない体験をさせてもらったと好評価を頂きました。
- ②アウトドアクッキングでは、「うどんづくり」を行いました。子ども達が興味を示す「こねる」「踏んづける」などの作業から、うどんをつくりあげて食べるまでの体験をしましたが、今回の体験から子ども達には、「食」に関する興味も持ってもらえたと評価しています。
- ③東日本大震災の被災地からの参加者もあり、心身のリフレッシュに役立てたと評価しています。



この活動を実施したことによる団体の成長

運営にはボランティアスタッフに関わってもらったことで、活動の理解が深まり今後に広がりが出ました。



親子で手打ちうどんづくり

活動の課題

キャンプ場周辺のフィールドにおいてチャレンジプログラムの開発を研究していく必要があります。

今後の展望

- ・本活動を継続していくことにより、自然の中で遊ぶ子どもたちを増やしていけたらよいと思っています。
- ・毎年参加する家族もあり、子どもたちの成長を見守っていけたらよいと思っています。

団体の概要

(社)日本キャンプ協会公認のキャンプ指導者が文部科学大臣認定事業として「野外活動指導者」に認定されたことを機に、日本キャンプ協会からの要請もあり、旧キャンプ指導者が集まり、平成10年10月に「宮城県キャンプ協会」として発足しました。

年間活動としては、キャンプインストラクター養成講習会、ファミリーキャンプ大会、スノーチャレンジキャンプ、キャンプリーダー養成講座、アウトドア教室などキャンプ・野外活動の普及活動を行っている他、宮城県内の子ども達を対象とした体験活動を企画・運営し、子どもの健全育成に努めています。

わんぱくキッズ自然体験活動

募集対象／小学生1～6年生 活動日／8月10日（水）～13日（土）（3泊4日）

実施団体名／みちのくわんぱくキッズ

構成員数／9名 子どもゆめ基金助成回数／2回

連絡先／福島県伊達郡桑折町

TEL：090-2994-3962

活動の概要

現代の子ども達の遊びがテレビゲーム系のインドアゲームに偏っている中、親から離れ自然を感じのびのびと遊ぶという経験をより多くの子ども達に体験して欲しいです。

活動の日程・内容

日程	時間	内容
8月10日 （水）	PM	キャンプ場探検、野外炊飯 キャンプ場探検では、自然散策をしながら、自然のルールや森の危険を探す。
	夜	ナイトハイキング
8月11日 （木）	AM	川遊び 川にある石を積み重ね、ある一定の高さを超えるには、どのようにすれば良いかという課題を解決するために、グループでチャレンジして、解決していきます。
	PM	竹箸づくり 竹をナタで割り、削って箸をつくります。その日の夕食は、自分でつくった竹箸で食べます。
	夜	野外炊飯
8月12日 （金）	AM	川原・森林トレッキング 川原や森林を散策し、自然の中にある宝物を見つけて、遊んだり、トレッキングをしながら、野外炊飯で使用する薪を探します。
	PM	川遊び
	夜	野外炊飯、夜の森探検
8月13日 （土）	AM	森のお散歩、清掃活動 清掃活動では、ただ、キャンプを楽しんで終わりではなく、次の人が気持ちよくキャンプ場を使用するためにはどうしたらよいかをグループごとに考え実施。



アシカみたいに手をつけて川の中を歩いちゃえ！

活動の目的やねらいを達成するための具体的なプログラムと主なポイント

活動のポイント①：川遊び

川で遊ぶことの「楽しさ」だけを体験するのではなく、流され体験などを行うことで「危険」や「恐怖」を感じ、川で遊ぶときの注意などを体験学習します。



みんなで協力して頑張るぞ！

活動のねらい

子どもが自然体験活動を通して、のびのびとたくましく育つことをねらいとしています。

活動の課題

子ども達がのびのびと豊かな体験を行えるように、スタッフのスキルアップと確保、資金の確保が課題です。

活動の成果

子ども達のペースに合わせながら3泊4日、時間にゆとりをもつことができ、思う存分自然を満喫することができました。

また、初日はスタッフに頼る子どもが多かったものの、2日目3日目と時間が経つごとにまずは自分でチャレンジし、どうしても駄目な場合はスタッフを頼ることもあったが、上級生が下級生に手を差し伸べる場面が増え、たくましくなっていく姿が見受けられました。この結果から、活動のねらいは達成できたと考えられます。

今後の展望

子ども達に日本の四季、東北の四季を感じ、非日常生活の中から生きる力を育めるような活動を提供していきます。



カッターを使って、気を付けながら箸づくり!!

この活動を実施したことによる団体の成長

- ・キャンプの中で子ども達の成長を感じとること。
- ・成長の場に寄り添うこと。
- ・子ども達が「自分のことは自分でやる」時に見守ること。

等、スタッフがこのキャンプを通して子どもと一緒に成長できていることが団体自体の成長に繋がっていると考えています。



どのグループのカレーが一番おいしいかな？

団体の概要

意図的に大人の都合や考え方を強要せず、子どもが持っている感覚や感性を信じ、引き出すような関わり方で、子ども達が豊かな心を育む場を作り出すことを目的に活動しています。

広がる！ 森里海の自然体験指導者ネットワーク

募集対象／【指導者】一般成人、保護者、保育士、学校教員、NPO活動者

【体験者】未就学児～小学校6年生 活動日／平成23年6月22日(水)～平成24年2月5日(日)(全7回)

実施団体名／高津川22世紀プロジェクト 自然体験活動チーム

構成員数／5名 子どもゆめ基金助成回数／1回

連絡先／E-MAIL：friendriver@takatsugawa.jp

活動の日程・内容

日時	内容
6月22日(水) 午後	講座(1)「川で遊んでみよう～安全管理とカヤック体験会～」(大人のみ) 自然体験活動とは 川遊びにおけるリスクマネジメント/ 川遊びの道具紹介 安全管理講習(ファーストエイド) 軽度外傷の手当て 模擬実践
7月3日(日) 午前・午後	講座(2)「楽しい水教育～プロジェクトWETエデュケーター講習会～」(大人のみ) WETプログラム体験 ミニ講義/アクティビティガイド配布/ 概要と実習説明 実習準備/実習(3グループ)とフィードバック
8月6日(土) 午前	講座(3)「自然へふみだそう!～ネイチャーゲーム体験会～」(大人のみ) アクティビティ 私は誰でしょう/コウモリとガ/ フィールドビンゴ/わたしの木/ミクロハイク ミニ講義

上記の指導者養成プログラム参加者が下記のプログラムに指導者として参加します。

10月8日(土) 午後	「はじめての親子キャンプ～入門編～」(親子参加)
10月9日(日) 午前	ネイチャーゲーム 私は誰でしょう/コウモリとガ/フィールドビンゴ テント設営、野外調理(ダッチオーブン、ピザづくり)、星空観察
11月13日(日) 午前	「森のおさんぽ会～ネイチャーゲームを使って～」(親子参加) ネイチャーゲーム わたしの木/ミクロハイク
12月4日(日) 午前	「森のエネルギー～焚火でほっこり外ごはん講座～」(親子参加) 森のエネルギーのおはなし/食べ物についてのおはなし 味噌開き/料理(豚汁、玄米おむすび)
2月5日(日) 午後	「報告会(公開)」 事業報告、意見交換、交流会

活動の概要

地域において自然体験活動を推進するリーダーが不足しているため、連続講座を企画・実施し指導者育成を行うとともに、地域に指導者どうしのネットワークをつくります。



プロジェクトWETのアクティビティを体験

活動の目的やねらいを達成するための具体的なプログラムと主なポイント

活動のポイント：ネイチャーゲームやプロジェクトWET等のパッケージプログラム

ネイチャーゲームやプロジェクトWET等のパッケージプログラムを使用することで、今後のスキルアップや情報交換をしやすくしています。



水辺の安全活動、ライフジャケットを試着

活動のねらい

連続講座を通じて、自然体験活動の大切さや、心や感性の発達における体験活動の重要性を伝えることです。参加者には自然体験活動を通して、子どもの学びの意欲を呼び起こす動機付けができるような力を身につけて頂きたいです。

また、保育所や学校とつながることで、公教育や保育現場などにおけるゲストティーチャーとしての位置づけを作っていくことがねらいです。



ネイチャーゲームを体験

活動の成果

職場や活動フィールドが異なる様々な方々が集い、一緒に活動できたことで、さまざまな相乗効果が出始めています。(例えば、お互いの活動に補助として参加しあうなど。)

活動の課題

公教育などにおいても自然体験活動を促進させていくために、行政などとコミュニケーションを深めていくことです。

この活動を実施したことによる団体の成長

今回の研修を通して、会員それぞれが潜在的に持っていたスキルや、活動フィールドの情報なども共有できました。

今後の展望

今後はネットワークを活かし、更なる研修やスキルアップの場をつくっていききたいです。

また、保育現場や教育現場において体験活動を手法としたプログラムを実施し、実績を積み上げていききたいです。

〈カリキュラム表〉

所要時間	項目	講師名	ねらい	内容
講義 20分	自然体験活動とは	檜谷 邦茂	自然体験活動への考え方や、最近の動向を学ぶ。	・自然体験活動の概念 ・体験活動の種類
講義 90分	川遊びにおけるリスクマネジメント	〃	川遊びにおける危険性と対処法を学ぶ。	・川の構造 ・川における危険性 ・川遊びの道具紹介
講義 20分	ネイチャーゲームとは	大森 庸司	ネイチャーゲームの理念を学ぶ	・体験のふりかえり ・ネイチャーゲームの概要 ・質疑応答
講義 15分	プロジェクトWETとは	河野 宏樹	プロジェクトWETの歴史と意義を学ぶ	・プロジェクトWETの歴史 ・プロジェクトWETの実践事例
実習 150分	プロジェクトWET アクティビティ体験	〃	体験することで、楽しさと意義を学ぶ	・実習説明 ・驚異の旅 ・アクアボディ ・流域探し
実習 190分	アクティビティ実習	〃	実際にアクティビティを進行することで、エドゥケーターとしてのノウハウを学ぶ	・グループわけ ・実習準備 ・実習 ・フィードバック
実習 110分	ネイチャーゲーム体験	大森 庸司	体験することで、楽しさと意義を学ぶ	・私は誰でしょう ・コウモリとガ ・フィールドビンゴ ・わたしの木 ・マイクロハイク
実習 90分	軽度外傷の手当て 模擬実践	檜谷 邦茂	軽度外傷の処置方法と、その予防策を学ぶ	・ファーストエイドの考え方 ・ファーストエイドキットの中身照会 ・軽度外傷への処置 ・ケガの予防

講義：145分、実習：540分、講座総時間：11時間25分

団体の概要

地域において自然体験活動を推進するため、NPO、保育士、教員等などが集まり、ネットワークを活かして活動をしています。

植物のタンパク質実験

募集対象／神奈川県内の高校生 活動日／平成23年12月26日（月）～28日（水）3日間

実施団体名／財団法人木原記念横浜生命科学振興財団

構成員数／8名 子どもゆめ基金助成回数／8回

連絡先／〒230-0045 神奈川県横浜市鶴見区末広町1-6
TEL：045（502）4810 FAX：045（502）9810 URL：http://kihara.or.jp

活動の概要

大学教員の指導のもと、バイオテクノロジーの主要な実験を実際に体験し、ライフサイエンスへの興味と理解が深まることを目的として実施しました。

1グループにつき、ティーチング・アシスタント（研究室に在席している大学・大学院生）を1名配置しました。指導者（大学教員）の進行に際し、アシスタントがグループ内の個別の疑問点に丁寧に対応し、グループ全員が理解できるように指導を行ったため、レベルの高い講義・実験手法についても、理解を深める事が出来ました。



細胞の様子を全員で観察

活動の日程・内容

月/日	時間	内容
12月26日（月）	10：00～10：30	ガイダンス
	10：30～12：00	植物細胞の顕微鏡観察
	12：00～13：00	昼食
	13：00～17：00	植物からのタンパク質抽出実験
12月27日（火）	10：00～12：00	酵素活性の測定実験
	13：00～17：00	植物タンパク質の分離実験／大腸菌によるタンパク質算出実験
12月28日（水）	10：00～11：30	植物タンパク質の分離実験
	11：30～12：00	まとめ／閉会式

活動の目的やねらいを達成するための具体的なプログラムと主なポイント

活動のポイント：植物からのタンパク質抽出実験

グループ単位で実習を行いました。可能な限り、個々で実験が出来るように実験器具と試薬を配置します。個々で実験を行いつつ、結果はグループで導く為、学年を超えたディスカッションが可能となります。参加者が主体的に実験に取り組み活発な意見交換を行った結果、実験の結果（成功・失敗）にかかわらず、実験の目的と原理について楽しく学ぶことが出来ます。

活動のねらい

進路の検討を始める高校生たちに、大学レベルの実験の場を提供することでバイオテクノロジーの実際に触れてもらい、ライフサイエンスへの興味と理解を深めてもらう事です。



活動の成果

学校では体験できない実験に3日間じっくり取り組むことで、ライフサイエンス分野はもとより、科学体験への理解と興味が深まりました。また、参加者がその楽しさを他に伝える事によって、参加者のみならず県内の高校生の同分野への興味・関心を高める事に資する事が出来ました。



この活動を実施したことによる団体の成長

参加者からの「感謝の声」と「成長」に接することにより、対象を問わずライフサイエンスの普及活動を行う意義を再認識し、次世代に向けて、更に実習の機会を増やす、対象者の幅を広げる等発展的な活動を発信する事を目標とする事ができました。



試薬を分注している様子



電気泳動の結果を真剣に見つめます

活動の課題

高校生のみならず、小・中学生からの科学実験体験の機会減少がさらに加速してきています。今後は体験機会の提供を増やす事のみならず、中学生や理科教師を対象とした実験会の提供など更に活動の幅を広げることを重要課題として活動を行っていきます。

今後の展望

参加者へのアンケートから、実習の中で分かりにくかった部分が分かりました。大学レベルの手技・講義を、高校生でも理解できるような内容にするために、アンケート結果を教員にフィードバックし、実習のカリキュラム、伝え方の見直しを継続して行っていきたいと考えています。

団体の概要

生命科学における大学と産業界との共同研究を組織化し、その有機的連携を図るとともに、学術交流及び学術奨励を行い、広く社会に生命科学研究の重要性を伝え、もって神奈川県内の生命科学の振興とその応用による産業の活性化に寄与することを目的としています。

チャレンジ！ おもしろキッズサイエンス

募集対象／小中学生 活動日／平成23年8月2日（火）（3回）

実施団体名／佐賀理科の会

構成員数／10名 子どもゆめ基金助成回数／1回

連絡先／佐賀市高木瀬東6-12-17

活動の概要

小学生や中学生のための科学体験教室です。

児童生徒が身の回りの現象の不思議さや面白さに気づき、生活の中にひそむ科学に目が向くような科学遊びを体験することができます。



CDを回転させると表面の色が…

活動の内容・日程

8月2日（火）	内容
10:00	<p>第一ステージ 各ブース各研修室で分かれて実施 身近な生活に見られる物や事物現象をもとに科学実験遊びを行う。</p> <p>ブース① 「CDホバークラフトをつくろう」</p> <p>ブース② 「ペットボトル空気砲をつくろう」</p> <p>ブース③ 「回転するCDに不思議を体験しよう」</p> <p>ブース④ 「パラパラマンガをつくろう」</p> <p>ブース⑤ 「風船電話と糸電話をつくろう」</p> <p>ブース⑥ 「かんたんモーターをつくろう」</p>
11:20	アンケート記入
11:30	終了

※第二ステージ（12:30～）、第三ステージ（14:30～）もブースの内容は第一ステージと同様

活動の目的やねらいを達成するための具体的なプログラムと主なポイント

活動のポイント①：CDホバークラフトをつくろう

身の回りにある材料を使って実験や科学遊びをすることで、自宅に帰っても、自分1人で簡単に物を作れたり、実験や遊びができます。

活動のポイント②：風船電話と糸電話をつくろう

身近な材料を使って簡単に電話が作れることから、材料にそれぞれアレンジを加えて、他のものとは違ったものができて、作品に幅ができ、活動としても広がりができます。



おんさをを使った実験：音って、ふるえているんだね！

活動のねらい

児童生徒の身のまわりの現象と科学をつなぐ時間を提供することで、科学の不思議さや面白さを感じ取ること、活動を通して自然の事物現象や日常生活での現象などに興味関心を持ち、不思議と感ずることを自分で探究していこうとするきっかけになってくれることをねらいにしています。



活動の成果

参加者420名中416名が楽しかったと答え、406名が来年も参加したいと答えていました。感想としては、「家でもやってみたいです。」「自分でつくってみたいです。」「AとBとの関係がわかりよかったです」「簡単に作れて、しかも速いのはすごいです」といったものがあり、面白かったという経験が次回への活動の意欲を高めているようでした。また、身のまわりのものを使って作ったことで、自分でやってみようという気持ちが高まったといえるようです。



この活動を実施したことによる団体の成長

400名程度の児童生徒の募集、連絡、活動を行うことで、このようなイベントの運営ノウハウをもつことができるようになってきました。児童生徒と直接関わっていくことで、指導面における問題点が明確になってきたことと運営委員自身が、別の場所でいろいろな企画を考え始めたことです。



「もしもし、ママ聞こえますか？」



できあがった風船電話で、みんなでお話しよう！

活動の課題

児童生徒の募集の範囲（現在、佐賀市のみ）を広げることです。

定員割れをどう防ぐかが来年度の課題です。

現在のようなスタイル（同じ場所、無料で）を続けて行くために助成金がないと運営が難しいので資金の確保が課題です。

今後の展望

これからも毎年の開催を続けていき、将来的には事務担当を配置し、佐賀県全体からの募集を行いたいです。

団体の概要

小学校の教員が中心となって小学校理科教育に関することを自主研修している団体です。毎月、1回集まり研修を行っています。

「体験の風をおこそう運動」 おじいちゃん・おばあちゃんと一緒にウォーキング

募集対象／小学生1～6年生、60歳以上の一般成人 活動日／平成23年11月23日（水）

実施団体名／東陽スポーツクラブ

構成員数／6名 子どもゆめ基金助成回数／1回

連絡先／〒916-0041 福井県鯖江市東鯖江3丁目6-10

TEL・FAX：0778-29-1040 E-MAIL：toyo-sc@royal.ocn.ne.jp

活動の概要

子どもとお年寄りがグループを組む事で、ウォーキングの中では家庭・学校の話などや散策中見られる草花や昆虫等の話が飛び交い、またクイズと一緒に考える光景が見られ、普段出来ないふれあいや交流が出来ました。また、ニュースポーツでは、最初は戸惑う場面もありましたが、対戦していくうちに子どもとお年寄りが力を合わせ、絆を深めていく姿がみられました。チームワークを築くことが出来、時間を忘れて楽しむことができました。



応援も頑張ってます

活動の日程・内容

11月23日（水）	
8：00	公民館集合
8：20	出発 ・バスの席は、子どもとお年寄りペアで座る（くじ引き） ・会長挨拶
9：50	到着 ・対面式（子どもとお年寄りの） ・指導者、ボランティア紹介 ・ウォーキンググループ発表 ・指導者にウォーキングの姿勢などの基本を習う。
10：20	ウォーキング開始（約1時間コース） 《メタセコイヤ並木道をクイズラリーしながら散策》
11：30	ウォーキング終了
11：40	昼食（ウォーキンググループの班で昼食をとる）
13：00	ニュースポーツ体験（スティックリング） ・スティックリンググループ発表 ・指導者、ボランティアの指導の下、スティックリングを体験 ・グループ対抗戦で行う
15：00	出発
16：30	公民館到着

活動の目的やねらいを達成するための具体的なプログラムと主なポイント

活動のポイント①：ウォーキング

ウォーキングの場所についてはあえて知らない土地で交流をもつことにより、子どもとお年寄りが話し合いまた協力し合う事で、ふれあいが生まれ交流が出来ると思い活動場所を選びました。そこでウォーキングやクイズラリーをしながら交流を深めてもらいます。

活動のポイント②：スティックリング

福井県が発祥の地でもあります、スティックリングは、スティックを使ってパックをポイントゾーンに向けて打ち出し、得点を競い合うゲームです。特別な技術や力を必要とせずルールも簡単なことから、誰でも安全に手軽に楽しめるスポーツです。

活動のねらい

子どもとお年寄りでグループを組み、一緒にウォーキングやニュースポーツをすることによって、自然の中で普段出来ない体験や会話をし、ふれあいや交流が出来るようにするのがねらいです。

活動の成果

- ①ウォーキングでは、散策中に見られる草花や昆虫等の話が飛び交い、またクイズを一緒に考える光景が見られ、普段では出来ないふれあいや交流が出来たと思います。
- ②ニュースポーツでは、最初は戸惑う場面もありましたが、対戦をしていくうちに、子どもとお年寄りが力を合わせ、絆を深めていく姿がみられました。チームワークを築く事も出来、時間を忘れ楽しむ事が出来たと思います。

この活動を実施したことによる団体の成長

今回の活動を通して、改めて異年齢のふれあいや交流の大切さを学びました。これからの活動は、年齢を定めず地域のみなさんが楽しく参加出来る計画を立てていきたいと思っています。指導者やボランティアの協力を得ることにより、団体として地域との連携も出来たと思います。



対面式はチョット緊張気味



メタセコイヤ並木道を散策

活動の課題

今回、活動日が祝日という事もあり、子どもの参加者を集めるのに苦労しました。

今後、活動日を決める際には、他のイベント状況や地域行事などに注意しながら決めていきたいと思っています。今回限りの活動というのではなく、次につながる活動を開催していきたいと思っています。

今後の展望

2012年度は、年齢や性別に関係なく老若男女が参加できる活動を開催していきたいと思っています。また、より多くの体験や交流を図り、つながりや絆を高めていってほしいと思っています。今後さらに地域・家庭・学校と連携して、人と人のふれあいを大切にした健全育成にも努めていきたいと思っています。

団体の概要

平成18年に東陽中学校区住民を主体として発足されました、総合型地域スポーツクラブです。会長以下、役員及び事務局職員17名と会員約500名で構成されています。誰もが気軽に参加できるスポーツ環境を整え、会員みんながスポーツ活動を通じて、心身ともに健康な生活を送る事が出来るよう取り組んでいます。また、地域・家庭・学校と連携し、活動を通して人と人のふれあいを大切にした青少年育成に努めています。

やればできる！ 自分に挑戦！ 平成23年度伯耆町通学合宿 —新しい友達の輪がさらにひろがる—

募集対象／小学生（4～6年生） 活動日／平成23年10月16日（日）～平成23年10月29日（土）（全2回）

実施団体名／青少年伯耆町民会議

構成員数／31名 子どもゆめ基金助成回数／2回

連絡先／〒689-4201 鳥取県西伯郡伯耆町溝口647 TEL・FAX：0859-62-0712

活動の概要

子どもたちが家庭を離れ、寄宿舎で共同生活しながら通学することにより、自立し、協調性・社会性を高めるとともに感謝する心や実践する力を身につけることを目的として実施しました。



みんなで楽しく夕食です

活動の内容・日程

10月16日（日）～22日（土）A班

月/日	時間	内容
10月16日 （日）	15:00	受付
	15:30	入舎式（自己紹介、生活時間説明、注意事項等）
	16:00	各班役割分担
	17:00	夕食準備（調理）・食品買い物（夕食・朝食）
	18:00	夕食（食後片付け）
	19:00	自由時間
	20:00	各班入浴
	21:30	就寝
10月17日 （月）	6:00	起床、朝食準備（調理）
	7:00	朝食
	7:50	登校準備
	8:00	登校（各学校別）
	～	学校生活（各学校別）
～	～	帰舎（各学校別）
	15:30	各部屋、お風呂、トイレ、廊下掃除、洗濯
10月21日 （金）	16:00	自主活動（勉強他）
	17:00	夕食準備（調理）・食品買い物（夕食・朝食）
	18:00	夕食（食後片付け）
	19:00	自由時間
	20:00	各班別入浴
	21:30	就寝
10月22日 （土）	6:00	起床、朝食準備（調理）
	7:00	朝食
	8:00	館内清掃
	9:30	退舎準備（荷物整理他）
	10:30	退舎式（活動発表）
	11:00	解散

10月23日～29日B班 上記内容で別の参加者を対象に実施

活動の目的やねらいを達成するための具体的なプログラムと主なポイント

活動のポイント：各部屋の掃除・洗濯等

ねらいとして自立心、協調性、思いやりと感謝の気持ちを持たせることです。具体的には、各部屋、お風呂、トイレ、廊下の掃除や洗濯などの行動を自分で考え実行すること、仲間と協力できること、あいさつができてことなどです。

そのために、合宿の生活体験の中で、間食文化をやめる、早く寝る、仲間との協力関係を作るなどを学ばせていきます。



みんなで一緒に「いただきます」

活動のねらい

子どもたちが家庭を離れ、寄宿舎で共同生活をしながら通学することにより、自立し協調性、社会性を高めるとともに感謝する心や実践する力を身につけることです。

伯耆町内5つの小学校の4年生から6年生の児童が参加し、さまざまな体験を通し交流の輪を広げることです。



これから登校です

活動の成果

一週間寄宿舎にて、炊事、洗濯等一連の日常生活を共同して行うことにより、自立心、協調性が生まれたほか、思いやりと感謝の心を持って行動することが出来ました。

普段接することのない、他の学校の子どもたちとの交流が生まれました。

この体験により、今後の学校生活や家庭での生活で通学合宿を通じて得た体験が生かされることと考えられます。

活動の課題

- ①1回の合宿が1週間の期間であり、スタッフのサポート体制や子どもの健康状態のチェックや維持、登下校の安全を確保することが重要課題です。
- ②特にサポート面で長期に渡る合宿では、注意点多いため関わるスタッフ側のシフト体制を無理のないよう調整する必要があります。

この活動を実施したことによる団体の成長

本事業に協力・サポートして頂いた、ボランティアの方、大学生、地域団体（食生活改善推進協議会等）との連携により協力体制の輪が広がり、相互に交流を図ることができました。

今後もこの体制、つながりを大切にしていきたいです。

今後の展望

事業開催にあたり各団体との連携、地域の繋がりを大切にした事業展開をしていきたいです。この事業が地域リーダー育成の場や、今後行う事業への人的ネットワークの足掛かりとしても役立てばと考えています。

団体の概要

平成17年7月に、青少年の健全育成、家庭の健全化等を図る事業啓発の実施を目的に設立。子どもを対象とした企画を実施し、子どもの健全育成に努めます。

実施事業

自然体験キャンプ、通学合宿、あいさつ運動など体験活動を企画・運営し子どもの健全育成に努めています。

キッズフェスティバル in あらえびす 2011

募集対象／未就学児・小学生・中学生 活動日／平成23年7月31日（日）

実施団体名／特定非営利活動法人野村胡堂・あらえびす記念館協会の

構成員数／19名 子どもゆめ基金助成回数／6回

連絡先／〒028-3315 岩手県紫波郡紫波町彦部字暮坪193-1 野村胡堂・あらえびす記念館内
TEL：019-676-6896 FAX：019-676-6897 E-MAIL：kodo-araebisu@town.shiwa.iwate.jp

活動の概要

子どもたちに、郷土の偉人「野村胡堂」が遺した様々な業績を紹介し、郷土に誇りをもってもらうとともに、今では触れる機会が少なくなった茶道や短歌などの文化的な体験や、郷土芸能などの文化活動の発表を通して、自分を表現する力を身につけてもらいたいと願い、実施しました。

また、地域のさまざまな世代のボランティアに協力をいただくことで、子どもたちが楽しみながらコミュニケーションをとり、世代間交流ができるよう活動しました。



星山神楽を披露する子どもたち

活動の内容・日程

7月31日（日）	ブース	コーナー名	内容
10:30 ～16:00	体験 コーナー	【俳句を詠もう】	自然に恵まれた記念館の周りを散策しながら季語を探し、俳句を作ってみる（胡堂は中学時代、作った俳句を投稿したり、友達と回覧して批評しあった）。
		【メンコ作り】	自分で描いた絵をメンコにして、遊ぶ（胡堂は、大学で絵を勉強したがったが親の反対にあい、断念した。しかし、晩年目が悪くなるまで絵を描き続けた）。
		【手紙を出そう】	はがき、封書の書き方を習い、実際に身近な人に手紙を出してみる（通信手段が手紙や電報しかなかった時代、胡堂は家族や友人にたくさんの手紙を出している。また、家族からの手紙も多く残っている）。
		【茶道体験】	お点前を習い、お茶を点て、お客様に実際出してみる。
		【紙芝居】	「野村胡堂の生涯」を子どもたちに分かりやすく紹介するために作成された紙芝居を借り、読みかたのポイントなどの指導を受け、実際に読み聞かせてみる。
		【昔遊び】	竹馬、お手玉などを地域のお年寄りに習ったり、紙ヒコーキを折り、飛ばして競争したり、ゲームなどの機械に頼らない遊びを体験する。
13:00 ～13:30	ステージ	【餅つき体験】	地域の婦人会の指導を受け、杵と臼を使って実際に餅をつく（紫波町はもち米の生産量日本一という誇りと、つくたてならではの味を堪能してもらう）。
		【郷土芸能披露】	「星山神楽保存会」の演舞（町内の小中学生が活動している団体の郷土芸能を披露する）。

活動の目的やねらいを達成するための具体的なプログラムと主なポイント

活動のポイント①：【昔遊び】

昔遊び等の体験コーナーでは、子どもたちが、自由に様々な活動を体験出来るように、各コーナーとも開始時間や定員を設けず、興味をもったらいつでも参加できるよう工夫しました。

活動のポイント②：【郷土芸能披露】

地域に郷土芸能を伝え遺すための子どもたちの活動を知ってもらい、これまで郷土芸能に興味のなかった子ども達が、その素晴らしさを体感し、自分も活動に参加したいと思うように紹介しました。

活動のねらい

「野村胡堂」のいろいろな面を、体験や遊びを通して知ってもらおうを通じ、胡堂がどれほどふるさとを愛し、誇りに思っていたかを知ってもらうとともに、参加した子どもたち自身にも、生まれ育ったふるさと、偉人、文化などに誇りを持ってもらうことを目的としました。

活動の成果

各コーナーの担当者には、「なぜ、この体験が野村胡堂につながるか」ということを簡単に説明してから、子どもたちを指導するようにし、胡堂の全てを知ることが出来なくても、胡堂が子ども時代に体験した遊びや、胡堂が好んだ文化活動を体験することで、楽しみながら胡堂の一面が理解できたと思います。また、子どもだけではなく大人からも、胡堂の知らなかった一面を理解することが出来たと、非常に好評でした。

この活動を実施したことによる団体の成長

この活動は、たくさんの参加者を募る規模の大きい行事なので、職員だけでは対応しきれないものです。そこで地域住民や学生などに声を掛け、多くのボランティアの手を借りて実施してきました。それによって、地域住民や学生との協力体制も生まれ、より多くの人々が当法人の活動に興味を持ち、参加してくれるようになり、今後の活動への自信につながりました。



芝生で遊ぶ子どもたち



餅つきに挑戦

活動の課題

より多くの子どもたちに興味を持って参加してもらうこと、そしてマンネリ化しないよう、体験の内容を吟味し、種類を増やすなどして、工夫していかなければならないと考えています。常に子どもの興味をひく内容、また、私たちが伝えたい内容は何かを考え、周知していくのが課題と考えています。

今後の展望

子どもたちを対象とした別の活動にも、積極的に参加してもらえるように周知していきたいと考えています。そのためにもボランティア、地域住民、スタッフが協力して活動を継続していけるよう努力したいと思います。

団体の概要

当法人は、広く野村胡堂を紹介することに加え、自主事業として、子どもたちに音楽と触れ合う場を提供する活動や、胡堂を通じて教養を深める活動などを企画し実施しています。芸術・文化のふれあいや創造を通して、豊かな地域社会の実現に寄与するため、平成22年にNPO法人に認定されました。

本の世界を楽しく体験する読書会2011

募集対象／未就学児（3才以上）～小学校6年生

活動日／平成23年5月14日（土）～平成24年3月7日（水）（12回）

実施団体名／Apple kids

構成員数／5名 子どもゆめ基金助成回数／2回

連絡先／〒666-0007 兵庫県川西市鶯が丘17-12

TEL・FAX：072-757-2477

活動の概要

本の読み聞かせ会では、大人だけでなく、小学生も「読み手」になり、聞き手、読み手の両方を体験してもらいます。本の世界の体験会では、本の中の世界を実際に体験することで、本を読むことの楽しさを味わってもらい、読書への意欲を持ってもらうことを目的とした活動です。

小学校の近くの集まりやすい公民館などを会場にすることで、多くの人に安心して来て頂ける工夫をしました。



ちゃんと聞いてないと、アイスクリームが作れないよ！

活動の日程・内容

本の読み聞かせ会（8回）16：00～17：00
7/6、9/7、10/5、11/2、12/7、
1/11、2/1、3/7（第1水曜日）

- ・絵本の読み聞かせ。
- ・小学生が読み手となって絵本を読む。

本の世界の体験会（4回）
1回目 5/14（土）13：00～16：00

- ・「かぶとくん」の絵本を読む。
- ・カブト虫の幼虫の育て方を学ぶ。
- ・幼虫と腐葉土を虫かごに入れて観察する。

2回目 6/12（日）10：00～11：30

- ・「そらまめくんのベッド」の絵本を読む。
- ・そら豆の皮でベッドを作る。
- ・そら豆とえんどう豆の育て方を学ぶ
- ・苗を植えて観察し、豆を育てる。

3回目 8/24（水）15：30～16：45

- ・「ばばあちゃんのアイスパーティ」の絵本を読む。
- ・本のレシピ通り、氷やドライアイスを使ってアイスクリームを作って食べる。

4回目 12/21（水）15：30～16：45

- ・「ちいさいおうち」の絵本を読む。
- ・イメージを膨らまして、自分だけのオリジナルミニハウスを作る。
- ・子ども同士で自分のこだわったポイントを話し合う。

活動の目的やねらいを達成するための具体的なプログラムと主なポイント

活動のポイント①：小学生が読み手となって絵本を読む

季節にあった本を選び、大人と、小学生が読み手となって絵本を読みました。最後の会では、一番印象に残った本をみんなの前で発表しました。

活動のポイント②：本の世界の体験会

本に書いてある通りの順番、レシピ、格好で作るなど、子ども達自身が主人公になり、本の世界に入り込めるような空間を作り、本の世界を存分に味わい、楽しめる工夫をしました。



本の世界に入り込んで、みんな真剣に聞いています。

活動のねらい

活字離れが進む子ども達に、読書の楽しさを味わってもらい、本を好きになってもらうきっかけ作りを目的としています。また、読むだけの間接体験だけでなく、実際に体験することによって読書に興味を持ち、習慣化すれば、自然と数多くの本の世界に触れることになり、豊かな心の形成に役立つので、本に触れる機会を増やすことをねらいとしています。

活動の成果

- ①本を読みながら、想像力を膨らませるだけでなく、実際に観察、体験することにより、楽しさが倍増し、本を読むことの面白さに気づいてくれたと思います。本の世界を実際に体験することにより、大変活発な活動になりました。
- ②これまで本に興味がなかった子でも、体験したことが面白かった事で、参加する子が増え、本の楽しさに触れるきっかけを提供できたと思います。積極的に自分が「読み手」になりたいと手を上げる子も出てきました。

この活動を実施したことによる団体の成長

- ①以前は、固定メンバーでの活動だったのですが、助成を頂くことで、多くの子ども達が本に触れ、本の世界を体験する有意義な活動になりました。
- ②活動に協力して頂いた地域の方々や、教えていただいた講師の方々との新しい交流ができ、ネットワークが大きく広がりました。新たな取り組みをするきっかけにもなり、今後地域の中で団体の活動を広げることができればと思っています。

活動の課題

参加者が集まりやすい公的な場所での開催が望ましいのですが、定期的な会場の早期確保がむずかしいため、予定がなかなか確定できず、参加者募集の広報活動を短い期間でしなければならない事がありました。

今後の展望

身近に本に親しむ機会と場所があることは、子ども達にとって大切で必要なことだと思います。今後も、このような活動を続けていくことが、子ども達の健全な成長につながると思いますので、今回の活動を通じて広がった、子ども達や地域の方々とのネットワークを大切にしながら、更に活動を広げていきたいと思えます。



小学生が読み手に挑戦。上手に読めるかな？

団体の概要

Apple kidsは2003年に兵庫県の「まちの子育てひろば」として活動を始めました。

地域の子育て中の親子が集まって親睦を深める目的で、月2回、定期的に活動しています。親子で参加し、絵本の読み聞かせ、工作、リトミック、英語、食育、父親の育児参加、科学遊びなど子どもの健全育成全般に積極的に取り組んでいます。子ども同士の触れ合いによって、豊かな人格形成ができる子育て支援活動を実施しています。

「おやし劇団」 読み聞かせ指導者養成2011

募集対象／一般成人 活動日／1回目：平成23年6月4日（土）～7月23日（土）（8日間）
2回目：平成23年10月8日（土）～11月26日（土）（8日間）

実施団体名／特定非営利活動法人淑明学園

構成員数／5名 子どもゆめ基金助成回数／10回

連絡先／〒813-0011 福岡県福岡市東区香椎1-10-3

TEL：092-671-9684 FAX：092-671-9676 E-MAIL：info@syukumei.jp

活動の概要

紙芝居や本の読み聞かせを通して充実したふれあいの時間を意図的につくり、子育ての楽しみを知らせ体感させました。

また読書離れの傾向にある子ども達への読み聞かせ会を実施することで、積極的に子ども達と関わるための、父親を主体とした読み聞かせボランティア団体の指導者養成カリキュラムの実施です。



保育士による読み聞かせ

活動の日程・内容

1回目	全て10:00～15:00
6/4 (土)	オリエンテーション 講師紹介 活動内容の確認
6/11 (土)	子どもの年齢的な特徴 子どもの言葉や表情について
6/18 (土)	「お話」「絵本」「紙芝居」と子ども 「お話」「絵本」「紙芝居」と子どもを結ぶ
6/25 (土)	「お話」を聞くこと 「絵本」「紙芝居」の読み聞かせを聞く
7/2 (土)	読み聞かせのポイント 豊かな表現方法・ 身体表現 「お話」を語る、「紙芝居」を読むために …選ぶこと、覚えること
7/9 (土)	実習 「お話」を語る、「絵本」「紙芝居」を読む
7/16 (土)	紙芝居・ペープサート・パネルシアター 作り
7/23 (土)	発表会 まとめ
2回目（10月8日～11月26日）も1回目と同じ内容で実施	

活動の目的やねらいを達成するための具体的なプログラムと主なポイント

活動のポイント：実習：「お話」を語る、「絵本」「紙芝居」を読む

意図的に紙芝居や本の読み聞かせを通して充実したふれあいの時間をつくり、子育ての楽しみを知らせ体感させます。“読書”を媒体にして読書離れの傾向にある子ども達への読み聞かせ会を実施することで、積極的に子ども達と関わるすることができます。

〈カリキュラム表〉

所要時間	項目	講師名	ねらい	内容
講義 4時間	子どもの特徴についての基礎知識	稲垣 尚宏	子どもの年齢的な特徴及び障がい児について理解させる	・子どもの年齢的な特徴 ・子どもの言葉や表情について
講義 4時間	子どもとお話との関わり	稲垣 尚宏	「お話」「絵本」「紙芝居」における子どもとの関わりを学びとらせる	・「お話」「絵本」「紙芝居」と子ども ・「お話」「絵本」「紙芝居」と子どもを結ぶ
講義 4時間	読み聞かせのための知識	稲垣 尚宏	様々な読み物を書く受身の体験をさせる聞き手の心理を学びとらせる	・「お話」を聞くこと ・「絵本」「紙芝居」の読み聞かせを聞くこと
講義 4時間	読み聞かせのための技術	稲垣 尚宏	読み聞かせのポイントを習得させる	・読み聞かせのポイント 豊かな表現方法・身体表現 「お話」を語る、「紙芝居」を読むために…選ぶこと、覚えること
講義 2時間	読み物の通話読書	稲垣 尚宏	様々な読み物を通話・通読させる	・「お話」を語る、「絵本」「紙芝居」を読む
実習 2時間	実習 ・ポイントを抑えた読み聞かせ	稲垣 尚宏	読み聞かせの実習をさせる	・実習「お話」を語ってみる ・「絵本」「紙芝居」を読んでみる
実習 4時間	紙芝居の製作	稲垣 尚宏	独自の物を計画し紙芝居・ペープサート・パネルを作成させる	・紙芝居・ペープサート・パネルシアター作り
実習 4時間	発表会	稲垣 尚宏	手作りの紙芝居等を発表させる講義・実習で学んだことをまとめ反省させる読み聞かせ会に生かすことができるよう活用させる	・発表会 ・まとめ

講義時間：1080分、実習時間：600分、総講座時間：28時間

活動のねらい

読書活動においても母親たちが積極的に活動している反面、父親たちの参画は乏しい状況です。そこで地域の子ども活動に疎遠な父親達が、読書離れの傾向にある現代の子ども達に対して紙芝居や本の読み聞かせを通して、読書への関心を高めるとともに父親は身近な存在であることを、父親・子どもそれぞれに認識させることです。

わが子の父親から地域のおやじへ、更に教育への参加の促進を図り父親達が積極的に子どもに関わろうという意識を培うことをねらいとしています。



「子どもの特徴」についての講義

活動の成果

- ①読み手となる父親に、子どもの年齢的な特徴・子どもの言葉や表情から、声の出し方や口の開け方などを指導しました。表現方法・身体表現（声の出し方や抑揚、表情、目や手の動き等）を学んだ後は、実際に子ども達への読み聞かせを実施したいという気持ちが高まった様子でした。
- ②身近にある紙芝居や本などを通して子どもたちと関わることができることを知り、「子育て」を構えるのではなく、自分のできることから少しずつ関わりを広げていこうという考えを持った父親が多かったです。

活動の課題

忙しい父親が多い事を実感し、また、子どもとのかかわりの時間を確保するためにも仕事の都合を考慮して活動できる法制度整備も併せて重要であると痛感しました。

今回の『「おやし劇団」読み聞かせ会』が子育てや地域の活動に参加しようとする動機づけが必要です。受け皿となる組織の創出も必要であると考えています。

この活動を実施したことによる団体の成長

この活動を実施したことで地域においても、子どもを取り巻く環境がより良くなりました。また法人への協力者も増加しました。

本活動を成功させるための話し合いを行う毎に、社会における子育ての根本的な課題が共有されて、当法人の社会使命を再確認し今後の社会活動への大きな原動力となりました。

今後の展望

今後は『「おやし劇団」読み聞かせ会』を実施することで、親子（父子・母子・父母子）の触れ合いの場所と時間の提供をしていきます。今までのカリキュラムを終えた父親たちにボランティアとして読み聞かせをしてもらいます。また、読み聞かせ者の技術の向上を図るためにも、定期的な交流会等を計画していきたいと考えています。

団体の概要

平成7年に子ども達が心豊かで自ら意欲的、主体的に興味や関心を持って創造性に富んだ活動ができるように、心身の調和のとれた発達の基礎を成す経験を積み重ねさせ、資質や能力を育成することが必要と考え「生きる力のある子どもの育成」を目的に設立しました。

「社会」「自然」「人」との関わりの中で、障がい児、健常児、外国人の区別なく、自然体験・生活経験を重視した活動を実施し、子ども達の健全育成を図っています。

豊かな読書活動を支える読書ボランティア・スキルアップ講座

募集対象／子どもの読書に係わる活動をしているボランティアや職員、子どもの読書に関心のある方。

活動日／平成23年6月3日（金）～11月29日（火）（5日・5講座）

実施団体名／特定非営利活動法人としょかん再発見

構成員数／15名

子どもゆめ基金助成回数／1回

連絡先／〒468-0024 名古屋市天白区大根町168

TEL・FAX：052-801-5692 E-MAIL：info@toshokan-sai.org

活動の概要

読書ボランティアのスキルアップをねらいとする活動です。読みきかせをするために必要な、本の読み方、選び方についての講演会や、読書を広げたり、深めたりするための手だてとしての読書会（リテラチャーサークル）、読みきかせの技術の基礎を身につけるためのワークショップを企画しました。



講師の清水良明氏による講義

活動の内容・日程

日時	時間	プログラム名	内容	講師
6月3日（金）	10：30～12：00	講義 ワークショップ①	多人数を前に絵本を読む技術→読み聞かせはコミュニケーション（発声、絵本の見せ方などについて）	伊東 佳代 （俳優） 橋上 啓子
6月24日（金）	10：30～12：00	講義 ワークショップ②	大丈夫ですか？ あなたの読み聞かせ（選書や作品理解の重要性について）	清水 良明 （元校長）
7月12日（火）	10：30～12：00 13：30～16：00	講義 ワークショップ③	どこから始める？ 読み聞かせトレーニング（読みきかせと朗読の違い） 参加者一人ひとりの読みについて、講師による診断とアドバイス	劇団 Shelf スタッフ
8月20日（土）	13：30～16：00	講義 ワークショップ④	リテラチャー・サークルとは？ 読みきかせから自立した読書への橋渡し リテラチャー・サークル方式を活用した、読書への動機付けを測る方法について	足立 幸子 （新潟大学准教授）
11月29日（火）	10：30～12：00 13：30～16：00	講義 ワークショップ⑤	読むための身体づくり 参加者一人ひとりの読みについて、講師による診断とアドバイス	劇団 Shelf スタッフ

活動の目的やねらいを達成するための具体的なプログラムと主なポイント

活動のポイント：ワークショップ① （読みきかせをする前に大切なこと）

作品をしっかりと理解すること、一つひとつの言葉に着目しながら、自分の感じた疑問を解決し、イメージをふくらませて読むことが重要であり、段落や句読点など、文法的な知識も必要だということが、参加者に伝わるようにしました。

〈カリキュラム表〉

所要時間	項目	講師名	ねらい	内容
講義 45分	読み聞かせには何が必要か①	伊東 佳代 橋上 啓子	教室での読み聞かせに必要なことを理解する。	・教室で読み聞かせをする意味 ・小人数を対象に行う場合と、大人数を対象に行う場合の違い ・絵本を読み聞かせする場面、絵の提示の仕方
演習 45分	読み聞かせには何が必要か②		読み聞かせの基礎技術の習得させる。	・皆で絵本の読み聞かせと読みのクセ直し
講義 60分	読み聞かせをする前に大切なこと①	清水 良明	まず内容を正しく読み取ることが大事だということを理解する。	・教科書で用いられている取組 ・内容を正しく読み取るには、どんなことに注意しなければならないか
演習 30分	読み聞かせをする前に大切なこと②		作者の意図や内容が伝わる読み方を学ぶ。	・皆で読み取った内容が伝わる読みを練習する
講義 45分	読むためのトレーニングや身体づくり①		話し言葉と書き言葉の違いを理解する。	・書かれた言葉を音声化するために必要なこと ・話し言葉を再現する技術と書き言葉を音声化する技術の違い
演習 195分	読むためのトレーニングや身体づくり②	劇団 Shelf スタッフ	音声化するための基礎技術の習得させる。	グループ演習 ・音声化するための技術演習 ①首尾を一定に保つ ②母音を立てる ③二つの間（息を長く・息をする・息を詰める）を練習する ④文章構造の理解 ⑤句読点を打ち直してみる
講義 45分	読みを深める読書会①	足立 幸子	リテラチャー・サークル方式での読書会の進め方を理解する。	・リテラチャー・サークル方式での読書会 ①講師が数種類の本を簡単に紹介 ②参加者が読みたい本の所に集まる ③読み範囲と「役割」を決めて読む ・イラスト看、疑問紙、思い出し紙、段落履
演習 90分	読みを深める読書会②		読書会を体験して、進め方を習得させる。	・グループに分かれて、読書会を実際に体験する ・テキストの選び方など
演習 240分	トレーニングによる身体づくり	劇団 Shelf スタッフ	読むためにはどのようにして身体を作っていくかを学ぶ。 読み聞かせの基礎技術の習得	・聴衆全体に関心する発声をするための身体づくり ・発音訓練 ・読み聞かせクリニク ・聞きやすい読み聞かせはどのようにすれば良いか

講義時間：195分、演習時間：600分、総講座時間：13時間15分

活動のねらい

読書ボランティアとして活動するためには、本についての豊富な知識や、大勢の前で本を読むための技術などが必要ですが、実際には、体系的な研修を受けないまま、大勢のボランティアが手探りや思いこみで実践に取り組んでいます。

そうした読書ボランティアの人たちに研修の機会を提供し、ボランティア同士が交流できる場を設けるのがねらいです。



講師の足立幸子先生の指導によるワークショップの様子

活動の成果

- ①漫然と知人に誘われるままに、読みきかせを行ってきた読書ボランティアの意識を高めることができました。
- ②自分の子どもに読みきかせをする場合、また、図書館などに集まる子どもたちへの読みきかせの場合と、教室という場での読みきかせは、根本が違うということを理解してもらうことができました。
- ③終了時のアンケートでは、どの講座も、参加者から好評で、こういう場を継続して設けてほしいという意見が多くありました。

活動の課題

いろいろな場所で一般の人々による読みきかせが行われています。多くは玉石混淆です。研修の機会を増やし、読書ボランティアの質の向上を図らねばなりません。独りよがりや向上心のないボランティアも多いのが現状です。どのように参加者を増やすかが課題です。

今後の展望

「読書ボランティア・スキルアップ講座」は、ニーズが多く、今後も続けていく予定です。公共図書館とも、より連携して、活動の場を広げていきたいと考えています。

この活動を実施したことによる団体の成長

今まで、学校図書館という場で児童、生徒や教員を相手に活動してきましたが、読書教育は、社会全体が取り組むべきものだという認識を団体として改めて持つことができました。さらに、読書ボランティア団体との交流が生まれ、活動の場が広がりました。



劇団 Shelf スタッフによる講義

団体の概要

学校図書館に携わる教員、公共図書館司書、書店経営者、読書ボランティアなど、子どもの読書に関わる人たちが構成している特定非営利活動法人「としょかん再発見」です。年2回程度、講演会やワークショップを開催しています。子ども向けには、「名古屋市調べ学習コンクール」や自由研究作成講習会を開催しています。

青空おはなしタンケンジャー

募集対象／小学1年生から6年生 活動日／平成23年6月4日(土) 6月25日(土) 7月16日(土) 8月27日(土)
 実施団体名／青空おはなしヤマヤマ 9月24日(土) 10月29日(土) 11月26日(土)
 構成員数／4名 子どもゆめ基金助成回数／2回 12月17日(土) 1月28日(土) 2月18日(土) 計10回
 連絡先／〒420-0072 静岡県静岡市葵区二番町10-2
 TEL・FAX：054-253-5206 E-MAIL：yiu30122@xj.commufa.jp

活動の概要

青空おはなしヤマヤマはこどもたちの読書活動と外遊びの両方を応援しています。おはなし会の会場は、谷津山冒険遊び場で、ふもとから約10分程度の登山をした緑豊かな竹林の中にあります。太陽の光、空の下で年10回の開催で、1年の四季を感じることができるおはなし会。各回1時間、読み聞かせ3、4冊、ブックトーク、お楽しみの食実験や工作を楽しみます。



写真絵本を使って実際の竹林を知る

活動の日程・内容（10活動中の3活動目）

7月16日(土)	内容
10:00	あいさつ スタッフ紹介
10:05	テーマ紹介「冒険」
10:10	読み聞かせ 3冊（「綱渡りの男」、「アベコベさん」、「くいしんぼうのあおむしくん」）
10:35	ブックトーク「夏の楽しみ」 科学写真絵本「あさがお」「うみべのごちそう」「およぐ」を通じ、わかりやすい写真、絵をみせ、夏を楽しく過ごすヒントを探しに図書館へ出かけることを提案。
10:45	食実験「竹パンづくり」 冒険＝ワイルドに！ということで、事前にボランティアさんに切り出してもらった細竹にホットケーキミックスの生地を巻きつけ、竹パンづくりに挑戦。生地がこげやすく、遠目にあぶり、出来たてをみんなでもぐもぐたべた。
11:10	おすすめ本紹介、新刊紹介
11:20	終わりの挨拶と次回予告

活動の目的やねらいを達成するための具体的なプログラムと主なポイント

活動のポイント①：読み聞かせ

毎回3、4冊の絵本をテーマごとに読みます。会場は屋外のため、どんな絵本も普段とは違う印象になります。ロケーションに負けないインパクトのある絵本、ユーモア絵本、ストーリーが子どもたちの心に響く絵本など、選書に力を入れています。各月のテーマやブックトークにあわせて、科学絵本や写真絵本を紹介し、実際に絵本に書いてある内容を実験し、本当かどうか確かめてみます。また、地元絵本作家の絵本や、自然が舞台の絵本も読みます。月1回といえども、四季のうつろいを肌で感じることができます。

活動のポイント②：食実験「竹パンづくり」

学区を問わず、いろいろな子どもたちが参加するため、初めて会う子どもも多いです。読み聞かせだけでは一方的ですが、実験タイムでは、子どもたちが声を出し、手を使って動き出すので、自然と会話ができます。実験後は、みんなでそれを味見しあい、鑑賞しあうので、共同作業により、交流ができます。コミュニケーションが得意でない子どもには、スタッフが積極的に声かけをして、子ども同士が交流できるよう手伝いをします。会場が冒険遊び場のため、竹や自然を探しに、いろいろな大人がやってくるため、大人との交流もできます。

活動のねらい

- ①バーチャルな世界に慣れた子どもたちに、肉声の読み聞かせ、本に書かれたことは本当か調べることや、顔と顔をあわせてのコミュニケーションの大切さを伝えたいです。
- ②自然あふれる場所に出向けば、こころが開放され、絵本も素直に聞けることを感じてもらいたいです。
- ③絵本は幼児だけではなく、何歳でも楽しめるもの、まだまだ感受性豊かな小学生時代に、たくさんの絵本に出逢って、創造力、想像力をつけてほしいと思っています。



食実験はカレーナン作り

活動の成果

戸外のおはなし会には、自然と絵本と人間とドラム缶のたき火と読み手の肉声、そして子どもたちのつぶやき・笑顔があります。教室と違い、戸外だと、子どもたちは、気持ちが解放され、リラックスした態度でおはなしを聞き、おもしろいと声を出して笑い、手をたたくなど、わかりやすいリアクションをしました。絵本を読んだ後は、子どもたちが読み手に「その話はほんとうのことですか。」と質問をしたり、子どもたち同士で自然に感想を言い合ったりしました。これらは、戸外のおはなし会だからできることだと感じました。子どもたちは、ここで初めて出会っても、おはなしを一緒に聞いたこと、食実験という共通体験から、互いを意識するようになり、自然と会話ができました。毎回違うテーマで絵本を数冊読み、ブックトークで本を数冊紹介をしたことで、子どもたちの絵本選びの幅が広がったようで、「前に読んでもらった本を図書館で見つけて借りたよ」と言われました。

活動の課題

- ①会場まで、登山10分かかること、飲み水とトイレがないことで、参加に結びつかない子どもと保護者がいました。それにも勝るおはなし会の楽しさやワクワク感を広報宣伝していかななくてはならないと考えています。
- ②おはなし会の会場が戸外だとどうしても、気が外に向いてしまうことがあります。おはなし会に集中できるような、進行やプログラム作りを考えていきたいです。

今後の展望

母親がちらしをみて、活動に興味をもち、父親と子どもを誘って参加するという例がみられました。最初しぶしぶと参加した父親も、戸外のおはなし会でのんびりした雰囲気癒され、自ら楽しんでいました。父親にももっともっと育児参加の楽しさ、喜びを知ってほしいことから、おはなし会等を通じて、父親の育児支援にも力を入れたいです。

この活動を実施したことによる団体の成長

谷津山冒険遊び場のつながりで、谷津山を舞台にした絵本の製作に携わることができました。

また、「やつやまワールド」という企画展内でもおはなし会を開催することができ、地元子育て支援意見交換会に参加するなど活動を紹介する場が増えました。



竹のおじさんと交流

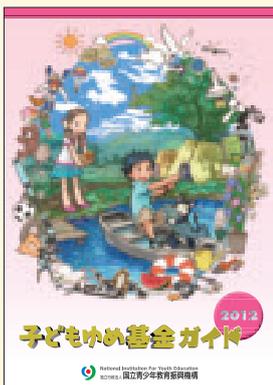
団体の概要

私たちは、子ども時代の体験はこころの原風景になると考え、戸外や室内のおはなし会開催、外遊びを応援する企画作り、子どもが主体的に関わるイベント等に取り組んでいます。最近父親の育児参加支援にも力を入れています。

子どもゆめ基金ガイドの活用方法とワンポイントアドバイス



子どもたちに『自然体験活動、読書活動などの活動を提供したい。』と思ったら……



まずは、子どもゆめ基金ガイドを読んで、あなたも実際に活動を企画してみよう。過去の子どもゆめ基金ガイドは、下記URLにアップされています。

<http://yumekikin.niye.go.jp/download/index.html>

平成 23 年度活動事例 **子どもの体験活動** 自然体験

しまキャンプ2011・夏休み

募集対象：小学3年生～中学3年生 活動日／平成23年8月12日（金）～19日（金）（7泊8日）
 実施団体名／しまキャンプ実行委員会
 構成員数／5名 子どもゆめ基金助成回数／6回
 連絡先／〒857-4601 長崎県南松浦郡新上五島町小串37
 TEL：FAX：059-55-2707 E-MAIL：kurashi_en@hotmail.com URL：sait99.com

活動の概要
 国立公園に位置する五輪列島をフィールドに、キャンプ施設が実施している海水からの塩作り、自給自足のくらしをベースとして、自然体験、読書活動、農業・漁業体験活動などに取り組んでいます。県ごとの競争を争って自然、自然体験で楽しむ。有難い自然体験を繰り返して行く。特別な力を活かさなければ高いレベルで楽しむことができない。子ども達自ら実践していくきっかけを作っています。

活動の日程・内容

日	時間	内容
8/12 (金)	午前	集合、朝礼、フリーで移動（生虫採集・土掘り）、船中お楽しみショー
	午後	入浴で移動、ランチ、カマド作り
8/13 (土)	午前	火のくらし（薪割り、薪割、夕飯、安全講習、夜を過ごす）
	午後	動物の世話、薪割、動物の世話、竹で食器作り
8/14 (日)	午前	動物の世話、薪割、動物の世話、薪割、夕飯、風呂、日記の記入、夜を過ごす
	午後	動物の世話、薪割、動物の世話、日記の記入、夜を過ごす
8/15 (月)	午前	動物の世話、薪割、動物の世話、日記の記入、夜を過ごす
	午後	動物の世話、薪割、動物の世話、日記の記入、夜を過ごす
8/16 (火)	午前	動物の世話、薪割、動物の世話、日記の記入、夜を過ごす
	午後	動物の世話、薪割、動物の世話、日記の記入、夜を過ごす
8/17 (水)	午前	動物の世話、薪割、動物の世話、日記の記入、夜を過ごす
	午後	動物の世話、薪割、動物の世話、日記の記入、夜を過ごす
8/18 (木)	午前	動物の世話、薪割、動物の世話、日記の記入、夜を過ごす
	午後	動物の世話、薪割、動物の世話、日記の記入、夜を過ごす
8/19 (金)	午前	動物の世話、薪割、動物の世話、日記の記入、夜を過ごす
	午後	動物の世話、薪割、動物の世話、日記の記入、夜を過ごす

活動のねらい

- 豊かな自然体験の提供。
- 地元を離れ、異年齢の仲間たちと協力し合って過ごすことで、自主性、協調性、忍耐力、感謝の心を養う機会とする。
- 島の魅力、島暮らしを多くの方に伝え、島暮らしの楽しさを感じてもらうこと。

活動の成果

島の大自然の中、自給自足の暮らしを実践している施設で長期滞在することで、子ども達にとって貴重な体験、豊かな自然体験を提供できています。

これまで12年、31回の宿泊キャンプ実施で、一部一週一泊十二歳から、総勢5000名以上の子どもが参加しています。またリーダーも高く、参加者全体の8割前後がリーダーとしてキャンプに参加して来たり、この経験で、参加して子ども達が学校で、スタッフとしてキャンプに参加して来たりする事例も増えています。

子どもの数が年々減少している島にとって、スタッフ合わせて30名程が地元のイベント大会に出場するなど、このキャンプから「元気」を発信できていると思います。

この活動を実施したことによる団体の成長

長年の経験によるスタッフのスキルアップ、地元での知名度と理解を得たことで協力が増えました。参加した子ども達とスタッフとして帰って来てくれること、また、それらにより、自分達の活動に自信を持つこと、以上が団体の成長です。

今後の展望

事業面では学校旅行など団体の受け入れ、スキルの向上に努める施設づくり（フィールド整備）です。ここに来るだけで強いメッセージを感じる場所として、段々島の復活を考えています。

活動の目的やねらいを達成するための具体的なプログラムと主なポイント

活動のポイント①：火おこしから炊飯
 火は火ある行動、グループを一つに束ねるポイントとして自分達のことは自分でやる（やるべきことをして、思い通りの結果）をコンセプトに、「一人ではできないこと」を協力し合えばできる（役割）を担っています。朝飯は、火おこしから薪割の調整、片付けまでを各グループで実施します。

活動のポイント②：ペーロン（11人乗りの手漕ぎ船）競争大会出場
 ペーロンは（11人乗りの手漕ぎ船）競争大会に出場し優勝を目指すことで団体の成長です。また、みんなを一つにする最高のアイテムは音楽と火だと思え、毎朝の朝会・マラソンを行うこと、毎朝の朝会、風呂、焚火の火の気があるようになっています。

34

①活動の目的やねらいを達成するための具体的な内容やポイントを考えてみよう

- ・参加者に伝えたいこと、感じさせたいことは何？
- ・身につけて欲しいことは何？
- ・上記を達成するために工夫する点は何？
- ・ポイントはプログラムのどこで実施するの？

③活動名等

- ・参加者が参加したい活動名は何だろう？
- ・対象者は誰にしますか？
- ・日程はいつにしますか？
- ・募集人数は何人にしますか？

②活動のねらいに対して終了後に得る成果や成長を想定してみよう

- ・活動終了後、子どもたちの成長と団体の成長は何だろう？

④具体的に活動の日程と内容を考えよう

- ・プログラムの詳細（タイムスケジュール）は？
- ・このプログラムは誰が担当しますか？
- ・外部指導者は、誰に頼もうと思いますか？
- ・この活動に携わる団体構成員は何人ですか？



子どもゆめ基金募集説明会（9月～10月）に参加してみよう！！

ホームページ（<http://yumekikin.niye.go.jp/>）に詳細を掲載しています。
たくさんの方々の申し込みをお待ちしています。



早めに申請書を作成し、応募しよう！！



東京湾の生きもの

教材名／東京湾の生きもの

実施団体名／株式会社 コミュニケーション・デザインング研究所

連絡先／〒164-0001 東京都中野区中野2-3-13

TEL：03-3229-1041 FAX：03-3229-1044 E-MAIL：miyajima@kasairinkai.com

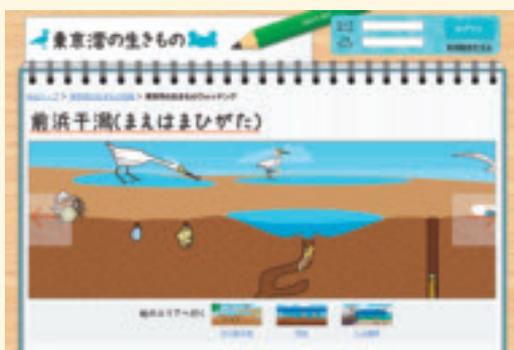
教材URL／<http://www.kasairinkai.com/ikimono/>

教材開発のポイント

本教材は、子ども向け・指導者向け双方のコンテンツを備えており、東京湾の生きものに対する興味・関心を持った人への啓発教材です。まず子ども向けコンテンツでは、4つのバーチャル空間（イラスト）で再現しており、幼児にも分かりやすい表現としています。写真つきの生態解説も用意しており、より知識を得ることも可能です。指導者向けコンテンツでは、「ファクトシート」と呼ばれる専門性の高い読み物や「小ネタ」を用意し、事実の伝達にとどまらないメリハリの利いた指導も可能です。



トップページ



東京湾生きもの図鑑
(イラストの生きものをクリックすると解説がポップアップ)

教材の概要

- ・本教材には、利用者や興味ごとの「入口」が用意されています。①子ども自身の調べ学習ニーズや、生きものに対する興味・関心からの入口②保護者や指導者の事前、事後学習ニーズからの入口③大人自身の関心からの入口です。
「子ども」というような単一のターゲットにレベルを合わせるのではなく、幅広い層の関心・知的好奇心を満たすよう構成されています。例えば子ども向けコンテンツにも専門的な「読み物」を用意し、大人でも関心するような内容となっているので、子どもはもちろん親子でも楽しめる内容となっています。
- ・コンテンツの一つである「東京湾の生きもの図鑑」では、生息環境を模したイラストやアニメーションを用いることで「本物」への関心を持っていただき、「ティーチャーズガイド」では子どもたちを実際に自然環境に連れ出す保護者・指導者が、ただ漠然と引率するのではなく、自身も関心を高め、そのうえで十分な知識をもって対応することができるようなガイダンスを整備しました。
ティーチャーズガイドにはモデルプログラムやすぐに使用できる学習教材も掲載しているので、多様な学習内容にあわせた指導も可能となっています。

教材の活用事例・普及状況

- ・葛西臨海・環境教育フォーラムによる「葛西臨海たんけん隊」で実施したテストプログラムの中で、当該教材の「ティーチャーズガイド」を活用し、学習教材のひとつである「葛西臨海公園・海浜公園の白地図」を使用し活動の振り返りを行いました。手軽に活用できる教材の存在がプログラムの質を高めたと評価されています。
- ・近隣小学校の総合的な学習の時間や自治体主催の子どもゼミ等で、本教材を活用したプログラムを行うことが決定しています。社会教育への展開を想定し、活用方法のアドバイスなど関係者と連携をとり対応していく予定です。

団体の概要

葛西臨海公園（東京都江戸川区）において行われる参加体験型環境教育プロジェクト「葛西臨海たんけん隊」（主催：葛西臨海・環境教育フォーラム）の事務局を担っています。今年度の葛西臨海たんけん隊では、これまで主な対象としてきた健常者向けに限らず、視覚障がいや聴覚障がいの方に向けたプログラムも実施するなど、幅広い層を対象にプログラムを提供します。

平成23年度助成活動で開発された教材一覧

教材の名称	HPアドレス	開発団体名（問合せ先）
子どものための楽しい立体構造 —ダンボールでアートしよう—	http://www.c-c-cnet.org/kingdom/	特定非営利活動法人 ZEROキッズ
家庭でホンモノ体験 はじめての包丁 —僕がみんなのご飯をつくるぞ—	http://www.greenwood.or.jp/hamono/	特定非営利活動法人 グリーン ウッド自然体験教育センター
守ろう！ 地球いきもの 「阿寒湖マリモの不思議を学ぶ」	http://www.gakujoken.or.jp/marimo/index.html	公益財団法人 学習ソフトウェア情報研究センター
みんなが主役！ 人形劇で遊んじゃおう！	http://doll.yume-zenshi.jp	全国視聴覚教育連盟
コビキタス・おもしろ 水と環境の課外教室	http://www.gakujoken.or.jp/omoshiroW/index.html	科学講座研究会
アジアのこどもの暮らし情報BOX	http://www.kids-au.net/i-box/ja/	特定非営利活動法人 こどもたちのアジア連合
得意・不得意から入る特別支援教育教材	http://www.e-kokoro.ne.jp/ss/tokui/	特別支援教育デザイン研究会
「日本と世界の名作から学ぶ、 『愛・美・礼・和』 生き方のヒント」	http://www.kimono-consul.org/kodomo.shtml	社団法人 全日本きもの コンサルタント協会
科学風で空を知ろう	http://biokitekids.tobihiro.jp/	特定非営利活動法人 日本バイオカイトクラブ
地域の人々や家族みんなでやってみよう！ 折って・切って・広げて びっくり！ 切り紙遊び	http://kirigami.social-edu-yume.jp//index.html	財団法人 全日本社会教育連合会
スーパーは水族館！？ —見つけよう、身近な魚のふしぎな世界	http://fish.yume-center.jp/	全国公立視聴覚センター 連絡協議会
ぼくらは海の探偵団 —干潟（ひがた）で遊んで学ぶ「生物多様性」—	http://higata.info/	特定非営利活動法人 教育改革ネット
親子で作る安心おやつ —生きる力を育む食育教室5—	http://foodapproach.com/yumehp/yume5/index.html	日本食文化環境研究所
銀河の森とわたしたちのくらし	http://www.tohoku21.net/hayachinenomegami/about.php	特定非営利活動法人 いわて芸術文化技術共育研究所
描こう 写しだそう 心のゆめ創造キャンパス	http://www.npo-htc.or.jp/souzo/index.php	特定非営利活動法人 人財育成支援センター
指導者向けサイト『生活リズム 教材.com』	http://report.hayaoki.jp/	子どもの早起きをすすめる会
やって見よう！ 君もできるボランティア活動	http://volunteer.sakura.ne.jp/	特定非営利活動法人 日本教育養成学会
やってみよう！ 江戸しぐさ —人形劇をヒントに—	http://edoshigusa.storageserver.jp/h23_yumekikin/	特定非営利活動法人 江戸しぐさ
方言ってなんだろう？ 地域の言葉を調べてみよう！ 方言から学ぶ文化多様性	http://hougen-gakushu.net/	財団法人 奄美文化財団
コケは地球を救う 苔（コケ）のふしぎ ～日本人と苔～	http://www.koke-chikyu.info	特定非営利活動法人 日本持続発展教育推進フォーラム
地域に伝わる自然にやさしい生活 —先人に学ぶエコライフ—	http://www.nature-ecolife.com/	自然を活用するエコライフ研究会
親子で作ろう！ クレイアニメ☆	http://www.clayanime.jp/challenge/make/make.html	みやこクレイアニメ研究会
ブラインドサッカー「スポ育」プロジェクト	http://kids.b-soccer.jp	日本ブラインドサッカー協会
東京湾の生きもの	http://www.kasairinkai.com/ikimono/	株式会社 コミュニケーショ ン・デザイン研究所
あつまれアートキッズ！！ みんなのチャレンジ美術館	http://www.artacademy.jp/artkids/index.html	一般社団法人 日本美術アカデミー
「そうだったのか！ わたしの行動」	http://yume.avcc.or.jp/	財団法人 高度映像情報センター
ぼくらはウォーキング・キッズ —歩いて、しらべて、もっと知る！—	http://walking-kids.info/	特定非営利活動法人 蓼科・八ヶ岳国際自然学校
全国の子どものたちの職業観を育む e-手仕事クラウド図鑑	http://shiminjuku.org/teshigoto	特定非営利活動法人 地域学習プラットフォーム研究会
風のひみつ	http://www.hitentai.net/tako-no-himitu/	NGO 飛天隊

日中韓子ども童話交流事業

● 事業の概要 ●

日中韓子ども童話交流事業は、日本・中国・韓国の子どもたちが一堂に会し、各国の絵本・童話を通じて読書の楽しみを知ってもらうとともに、相互理解と友情を深めることを目的として、2002年の「日中韓国民交流年」を機に開始しました。

第9回を迎える2011年からは3カ国による巡回開催となり、中国の北京と上海を会場に実施しました。

今回参加したのは小学校4年生から6年生の子どもたちで、日本から32名、中国から34名、韓国から33名の計99名でした。

8月17日から23日までの6泊7日で、「大空」をテーマに、悠久の歴史と豊かな文化を有する古都北京から、国際都市で経済の発達した「東方のパリ」上海へと会場を移しながら、友だちと協力して世界に1つの創作絵本づくりに挑戦しました。

● 事業の内容 ●

中国に出国する前日の8月16日に、日本の子どもたち32名が東京の国立オリンピック記念青少年総合センターに集まりました。出発式では、河村建夫日中韓子ども童話交流事業実行委員会委員長から激励のことばをいただき、新たに作成した「交流の旗」を横光克彦常任委員から授与され、日本の代表団として決意を新たにしました。

翌17日に羽田空港から北京入りし、中国の子どもたちが迎える北京匯佳学校に3カ国の子どもたちが集合しました。オリエンテーションで3カ国混成の10グループに分かれ、いよいよ童話交流事業がスタートしました。会場を中国科学技術館に移し、華やかな開会式が催され、日本からは河村建夫委員長が訪中して祝辞を述べ、日本の子どもから中国の子どもに「交流の旗」が手渡されました。

2日目には北京郊外の万里の長城に行き、壮大な中国の歴史と偉業に驚き、友だちと険しい石段を登りました。3日目には中国四大庭園の一つであり、世界遺産にも登録されている頤和園、国王や大統領などを迎える釣魚



団結式

台国賓館を訪れ、美しく優美な歴史遺産に触れました。

3カ国に共通する羽衣伝説をテーマに意見交換を行い、作家の葛氷先生から「創造力」「奇想天外」「自由奔放」をキーワードにいただき、いよいよ絵本作りに挑戦です。日本はサル、中国はパンダ、韓国はトラという主人公で、言葉の壁を乗り越えながらテーマ「大空」を生かした物語を各グループごとに相談しながら創り上げていきました。

後半は上海に移動し、上海万博の中国館見学や東方明珠テレビ塔からの眺望、黄浦江の夜景など、経済発展が著しい中国の一面を目



ページを張り合わせて、世界に一つの絵本が完成

の当たりにしました。

一人1ページを担当し、グループ全員で協力して完成させた世界に一つだけの絵本を手にも、グループごとに発表を行いました。自分が担当したページを大きな声で元気に発表し、ユニークな発想と意外な物語の展開に、会場は驚きと笑い声に包まれました。

最終日の解散式では、3カ国の子どもたちの代表3人が感想を発表し、学生ボランティアが「友達」という歌を合唱し、会場の人々に感動を与えました。子どもたちは、別れを惜しみながら、再会を誓い合い、上海空港から帰国の途につきました。



「交流の旗」を背に、創作絵本の発表をする子どもたち

世界に一つだけの創作絵本

3カ国の子どもたちが、男女混成で各国3～4名の10班に分れ、サル（日本）・パンダ（中国）・トラ（韓国）の3匹の動物を主人公にし、その主人公に自分たちの夢や気持ちを託し、グループ全員で分担・協力してオリジナルのストーリーを考え、絵を書きました。絵本は一人ひとりが1場面を担当し、全体をまとめることで、世界に一つだけの、友情が一杯詰まった創作絵本を完成させました。



日本



中国



韓国

「子どもゆめ基金」への寄附団体

平成23年度に「子どもゆめ基金」へ
ご寄附をいただいた方々をご紹介します。

自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日

(あいうえお順・敬称略)

アスカ王国ふれあいの旅委員会	株式会社伊藤園
特定非営利活動法人かわだ 夢グリーン	特定非営利活動法人 国際交流支援協会
特定非営利活動法人子ども 文化ステーション	特定非営利活動法人 さわやか出水女性の集い
西洋フード・コンパスグループ 株式会社	ソーシャルウェア・ ベジタブルコミュニティ
曾我部 國久	谷口産業株式会社
東京コカ・コーラボトリング 株式会社	友廣 峻
ニコニコ体験塾実行委員会	特定非営利活動法人 日本子守唄協会
乗倉 寿明	株式会社八洋
本田 正子	森田 秀作
ライフカード株式会社	

子どもゆめ基金へのご協力を

子どもゆめ基金は、国と民間が協力して青少年教育に関する団体が行う子どもの体験活動や読書活動などの振興を図り、子どもの健全育成に寄与するものです。

このため、個人、企業からもご協力をいただき、基金の拡大を図り、幅広くその活動を支援することになっています。

つきましては、下記の募金口座にて受付しております。広く皆様のご理解とご支援を何卒お願い申し上げます。

振替口座

口座番号	00150-5-371382
口座名義	子どもゆめ基金

※振込に便利な振替払込書の中に綴じておりますので、ご利用ください。

銀行口座

銀行名	三菱東京UFJ銀行	渋谷支店
口座番号	普通預金3025103	
口座名義	子どもゆめ基金	

子どもゆめ基金に対するご寄附は、税制上の優遇措置を受けることができます。

子どもゆめ基金への支援

検索

子どもゆめ基金ガイド2012

2012年8月発行

編集 独立行政法人国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金部

発行 独立行政法人国立青少年教育振興機構

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号

電話 助成課03-6407-7697 フリーダイヤル：0120-579081

URL <http://yumekikin.niye.go.jp/>

E-mail yume@niye.go.jp

教育施設一覽

当機構の全国28施設は、それぞれの地域の立地を活かした様々なプログラムを提供し、多くの青少年の体験活動を支援しています。

国立青少年交流の家

1	国立大雪青少年交流の家	(北海道美瑛町)
2	国立岩手山青少年交流の家	(岩手県滝沢村)
3	国立磐梯青少年交流の家	(福島県猪苗代町)
4	国立赤城青少年交流の家	(群馬県富士見村)
5	国立能登青少年交流の家	(石川県羽咋市)
6	国立乗鞍青少年交流の家	(岐阜県高山市)
7	国立中央青少年交流の家	(静岡県御殿場市)
8	国立淡路青少年交流の家	(兵庫県南あわじ市)
9	国立三瓶青少年交流の家	(島根県大田市)
10	国立江田島青少年交流の家	(広島県江田島市)
11	国立大洲青少年交流の家	(愛媛県大洲市)
12	国立阿蘇青少年交流の家	(熊本県阿蘇市)
13	国立沖縄青少年交流の家	(沖縄県渡嘉敷村)



国立オリンピック記念
青少年総合センター
(東京都渋谷区)

国立青少年自然の家

1	国立日高青少年自然の家	(北海道日高町)
2	国立花山青少年自然の家	(宮城県栗原市)
3	国立那須甲子青少年自然の家	(福島県西郷村)
4	国立信州高遠青少年自然の家	(長野県伊那市)
5	国立妙高青少年自然の家	(新潟県妙高市)
6	国立立山青少年自然の家	(富山県立山町)
7	国立若狭湾青少年自然の家	(福井県小浜市)
8	国立曾爾青少年自然の家	(奈良県曾爾村)
9	国立吉備青少年自然の家	(岡山県吉備中央町)
10	国立山口徳地青少年自然の家	(山口県山口市)
11	国立室戸青少年自然の家	(高知県室戸市)
12	国立夜須高原青少年自然の家	(福岡県筑前町)
13	国立諫早青少年自然の家	(長崎県諫早市)
14	国立大隅青少年自然の家	(鹿児島県鹿屋市)

